

| 令和元年度 教科指導計画書(シラバス) |  |                |
|---------------------|--|----------------|
| 課程                  | 専門課程   |                |
| 学年                  | 1年生  |                |
| 科目名                 | あん摩マッサージ指圧基礎 I   |                |
| 単位数                 | 4単位  |                |
| 法定時間数               | 120時間  |                |
| 担当教官名               | 青柳 達也  |                |
| 授業の目標               | あん摩マッサージ指圧師として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。                |                |
| 指導計画及び<br>授業時数      | (前期) 施術の導入・施術者としての注意事項・衛生管理及びリスク管理・姿勢及び身体各部の名称・基本手技・座位のあん摩を習得します。            | 授業時数: 60時間(予定) |
|                     | (後期) 輪状母指揉捏法・側臥位のあん摩・腹臥位の仕上げ・座位の仕上げを習得します。                                   | 授業時数: 60時間(予定) |
|                     |  | 合計: 120時間(予定)  |
| 成績評価の方法             | 理療教育実施細則に基づき、前期期末・後期期末の平均点の学年末評価(小数点第1位切り下げ)が60点以上の場合単位修得となります。なお、再評価はありません。 |                |
| 履修上の留意点             | 6月・11月に形成的評価のため、2回中間試験を行います。   |                |
| 予習・復習の<br>進め方       | 予習は配布した資料(テキストファイル)を確認してください。復習は授業で行った基本手技や術式などを練習してください。                    |                |
| 使用教科書               | 東京都立文教育学校理療科研究会著「理療基礎実習」日本ライトハウス刊  |                |
| 参考書/参考資料            | あん摩マッサージ指圧基礎 I マニュアル(テキストファイル)   |                |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|       |   |          |
|-------|---|----------|
| 課程    | 専門課程  |          |
| 学年    | 1年A組  |          |
| 科目名   | あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ   |          |
| 単位数   | 2単位   |          |
| 法定時間数 | 60時間  |          |
| 担当教官名 | 皆川 剛  |          |
| 授業の目標 | <p>術式は教科書を基本として、年間の到達目標は手技治療法としてのマッサージの歴史や意義、マッサージの基本手技と術式を理解し習得、習熟させることにより、基礎的な技術と能力の根底を養うことにある。保健医療を始め各種適応疾患に対応できるようになるためのマッサージの基礎を上級学年に繋がるように理解する。</p> <p>前期は専ら身体の使い方(重心移動)を習得し、後期に個々の手技、術式の基礎を理解する。</p>   |          |
| 指導計画  | <p>前期内容<br/>(2時間)<br/>大項目…マッサージ施術への導入(総論)<br/>小項目…マッサージの概要<br/>指導内容…スケジュールと目的と評価について①意義と沿革、②施術者としての心構え、③施術室の清潔、④手指の消毒と服装、⑤施術用具の管理、⑥作用機序の概要、⑦施術方法(あんまとの相違点・施術上の注意事項)<br/>指導上の留意点、備考…治療としての手技療法を理解させる。<br/>(2時間)<br/>大項目…マッサージの基本手技<br/>小項目…①軽擦法、②圧迫法、③揉捏法、④叩打法<br/>指導内容…マッサージの基本手技について紹介・体験し、その概要を学習する。<br/>指導上の留意点、備考…各種手技に応じた手の使い方を理解させる。<br/>(12時間)</p> | 前期計 30時間 |
|       | <p>大項目…身体各部のマッサージ<br/>小項目…①前腕<br/>指導内容…前腕部の基本術式を学習し、マッサージの各種手技に習熟させる。<br/>指導上の留意点、備考…手の使い方や動かし方を具体的に指導する。<br/>(8時間)<br/>小項目…②下腿<br/>指導内容…下腿部の基本術式を学習し、マッサージの各種手技に習熟させる。<br/>指導上の留意点、備考…術者の体や手の位置について指導する。<br/>(4時間)<br/>復習と評価</p>   |          |
|       | 前期計   | 30       |

|           |  |                 |
|-----------|--|-----------------|
|           | <p>後期内容<br/>(2時間)<br/>大項目…マッサージの基本手技<br/>小項目…①按捏法(強擦法)<br/>指導内容…マッサージの基本手技について紹介し、その概要を学習する。<br/>指導上の留意点、備考…各種手技に応じた手の使い方を理解させる。<br/>(4時間)<br/>大項目…各関節のマッサージの施術<br/>小項目…①手関節<br/>指導内容、備考…手関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び手関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…初めて行う按捏法の意義を理解させ、正しく手を用いるよう指導する。<br/>(4時間)</p> <p>小項目…②足関節<br/>指導内容…足関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び足関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…捻挫を起こしやすい場所でもあるので、関節の構造をよく理解して施術するよう指導する。<br/>(8時間)</p> <p>小項目…③肩関節<br/>指導内容…肩関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び肩関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…術者の体や手の位置を工夫して施術するよう指導する。<br/>(4時間)</p> <p>小項目…④膝関節<br/>指導内容…膝関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び膝関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…種々な膝関節障害を想定して指導する。<br/>(4時間)</p> <p>大項目…顔面のマッサージの施術<br/>小項目…<br/>指導内容…顔面の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…術者の手の位置や移動については十分配慮するよう指導する。<br/>(6時間)<br/>復習と評価</p> | <p>後期計 30時間</p> |
|           | 後期計  | 30              |
|           | 年度末計   | 60              |
| 成績評価の方法   | <p>理療教育実施細則の基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。<br/>(小数点第1位は切り捨て)<br/>評価は、前後期末試験の週までに実技試験を実施。</p>   |                 |
| 履修上の留意点   | <p>6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。</p>   |                 |
| 予習・復習の進め方 | <p>予習よりも復習が中心となります。既習の内容について、関連科目の内容も含めて振り返り、特に実技は繰り返し行うこと。</p>  |                 |
| 使用教科書     | <p>(1)理療基礎実習<br/>(2)あん摩マッサージ指圧理論(保健理療理論)</p>   |                 |
| 参考書/参考資料  | <p>必要に応じて配布。</p>   |                 |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |              |
|-----------|--|--------------|
| 課程        | 専門課程   |              |
| 学年        | 1年A組   |              |
| 科目名       | あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ  |              |
| 単位数       | 2  |              |
| 法定時間数     | 60   |              |
| 担当教官名     | 水元 ひろみ   |              |
| 授業の目標     | 臨床に向けた基礎的な能力と態度を養う。そのため腹臥位、仰臥位といった全身指圧操作の基本術式を習得する。  |              |
| 指導計画      | 前期内容<br>1 導入(指圧の意義、沿革、身体各部の名称など)<br>2 基本手技の紹介(通常圧、持続圧、衝圧、緩圧、吸引圧、母指圧、四指圧、手掌圧など腰部仙骨部でおこなう)<br>3 全身指圧操作の基本術式(1手技2回でおこなう。)<br>第1節 腹臥位の施術をおこなう。 | 2<br>4<br>24 |
|           | 前期計  | 30           |
|           | 後期内容<br>3 前期の続き(全身指圧操作の基本術式(1手技2回でおこなう。)<br>第1節 腹臥位の施術から第4節仰臥位の施術までおこなう。ただし矯正法はおこなわない。)<br>4 全身指圧操作の基本術式(1手技2回でおこなう。時間は80分～90分。)           | 28<br>2      |
|           | 後期計  | 30           |
|           | 年度末計   | 60           |
| 成績評価の方法   | 理療教育課評価指針に基づき、各学期末に80点満点で期末試験を行う。残りの20点分については平常点として評価する。   |              |
| 履修上の留意点   | 体表観察および解剖学、経絡経穴の復習も行いながら実施する。  |              |
| 予習・復習の進め方 | 解剖学における身体の方角(橈側や尺側等)や運動(屈曲や伸展等)を予習してください。修正を指導された内容など、反復して復習してください。  |              |
| 使用教科書     | 理療基礎実習上巻   |              |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布   |              |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |    |
|-----------|---|----|
| 課程        | 専門課程  |    |
| 学年        | 1年A組  |    |
| 科目名       | はりきゅう基礎実習 I   |    |
| 単位数       | 3単位   |    |
| 法定時間数     | 90時間  |    |
| 担当教官名     | 松本 元司   |    |
| 授業の目標     | 医療従事者としての心構えと態度・鍼施術を安全・正確に行える知識と技術を習得する。  |    |
| 指導計画      | 前期内容<br>(1)刺鍼にあたっての心構え<br>(2)鍼施鍼に必要な安全性について<br>(3)基本手技(術式)<br>(4)管鍼法の刺鍼手順<br>(5)練習台での刺鍼練習<br>(6)身体への切皮練習<br>(7)身体への刺入1                                    | 45 |
|           | 前期計   | 45 |
|           | 後期内容<br>(1)身体への刺入2<br>(2)頸肩部の症例に対する刺鍼<br>(3)背腰部の症例に対する刺鍼<br>(4)膝関節の症例に対する刺鍼<br>(5)肘関節、手関節、足関節への刺鍼<br>(6)圧痛点・圧診点・デルマトーム<br>(7)六部定位脈診<br>(8)補瀉<br>(9)各項目の補足 | 45 |
|           | 後期計   | 45 |
|           | 年度末計  | 90 |
| 成績評価の方法   | 理教教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とする。進行に応じて随時評価を実施する。(小数点第1位は切り捨て)   |    |
| 履修上の留意点   | ①実習における身なりを整える。白衣着用、頭髪、爪などに留意する。<br>②事故防止のため、指示された部位以外への刺鍼は禁止とする。<br>③体調管理に留意する。  |    |
| 予習・復習の進め方 | 授業開始時に前回の復習を行う。鍼施術で偶発する医療過誤の知識と対処法の学習と技術習得に留意する。  |    |
| 使用教科書     | 臨床基礎実習(第2版)Ⅲ 盲学校理療教科用図書編纂委員会編 日本ライトハウス  |    |
| 参考書/参考資料  | 新版経絡経穴概論第2版 医道の日本社 鍼灸基礎実習ノート 医師薬出版  |    |

教科指導計画書(シラバス)

|           |  |    |
|-----------|--|----|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程  |    |
| 学年        | 1年A組   |    |
| 科目名       | はりきゅう基礎実習Ⅱ   |    |
| 単位数       | 2単位  |    |
| 法定時間数     | 60時間   |    |
| 担当教官名     | 天野光二   |    |
| 授業の目標     | 施術者として必要な灸施術に関する基礎的な知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。  |    |
| 指導計画      | 前期内容   |    |
|           | 1. オリエンテーション   | 1  |
|           | 2. 施術への導入  | 1  |
|           | 3. 施灸の基礎   | 1  |
|           | 4. 基本的施灸法  | 27 |
|           | (1) 透熱灸法<br>(2) 知熱灸法<br>(3) 隔物灸法   |    |
| 前期計       | 30   |    |
| 後期内容      | (4) 温灸器具を用いた灸法   | 30 |
|           | (5) 身体各部への施灸   |    |
|           | (6) 主な経穴への施灸   |    |
|           | (7) 施灸による全身調整法   |    |
| 後期計       | 30   |    |
| 年度末計      | 60   |    |
| 成績評価の方法   | 前期末と後期末に実技試験を実施し、その平均点を学年末評価とする。   |    |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため、観察法による評価を行う。  |    |
| 予習・復習の進め方 | 実技練習は日々行うことが望ましい。ただし、事故や防災等に留意し、原則として実習室で行い、実習室以外では火器を使用しないこと。また、授業時間以外の事故については自己責任になります。※「理療教育における施設や設備の利用等マニュアル(利用者向け)」第8章 授業時間以外に実技練習を行うときの注意事項参照 |    |
| 使用教科書     | 理療基礎実習   |    |
| 参考書/参考資料  | 資料は必要に応じて配布します。  |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |  |
|-----------|--|--|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程  |  |
| 学年        | 1年A組   |  |
| 科目名       | 解剖学 I  |  |
| 単位数       | 4単位  |  |
| 法定時間数     | 120時間  |  |
| 担当教官名     | 池田正道   |  |
| 授業の目標     | 骨系、筋系、神経系の位置・形態・構造とその運動について理解する。   |  |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>1. オリエンテーション 1</p> <p>2. 人体の区分と方向 2</p> <p>3. 運動器系(骨格系) 45</p> <p>(1)総論</p> <p>(2)脊柱</p> <p>(3)胸郭</p> <p>(4)上肢の骨格、上肢の関節と運動</p> <p>(5)下肢の骨格、下肢の関節と運動</p> <p>(6)頭蓋骨</p> <p>4. 運動器系(筋系) 2</p> <p>(1)総論 10</p> <p>(2)体幹 1. 体幹の筋、運動、局所解剖</p> <p>前期計 60</p> <p>後期内容</p> <p>4. 運動器系(筋系) 28</p> <p>(2)体幹 1. 体幹の筋、運動、局所解剖</p> <p>(3)上肢 1. 上肢の筋、運動、局所解剖</p> <p>(4)下肢 1. 下肢の筋、運動、局所解剖</p> <p>(5)頭頸部 1. 頭頸部の体表および局所解剖</p> <p>5. 解剖見学実習 4</p> <p>6. 神経系 26</p> <p>(1)神経系の構成</p> <p>(2)中枢神経系</p> <p>(3)伝導路</p> <p>(4)末梢神経系</p> <p>7. 基礎運動学 2</p> <p>(1)てこと滑車</p> <p>(2)人体の重心と姿勢</p> <p>後期計 60</p> <p>年度末計 120</p> |  |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)  |  |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。  |  |
| 予習・復習の進め方 | 解剖学は2年、3年で履修する科目の基礎となる科目です。また、あん摩や鍼の実技でも解剖学の知識は重要となります。試験前の学習だけで点数がとれたとしても、それは自分自身の知識とはならず、忘れてしまい、そのことは他の学習や実技にも大きく影響します。授業が終わったら必ずその内容を復習してください。教科書をよく読み込み十分に理解しておくことが大切です。また、わからないことがあればそのまま放置せず質問するようにして下さい。  |  |
| 使用教科書     | 解剖学<第2版>テキスト版、図譜版 【河野邦雄他著/医歯薬出版】   |  |
| 参考書/参考資料  | 基礎運動学の内容については資料を作成し配布します。  |  |

平成31年度 教科指導計画書(シラバス)

|       |  |  |
|-------|--|--|
| 課 程   | 専門課程   |  |
| 学 年   | 1年A組・B組 共通   |  |
| 科目名   | 解剖学Ⅱ   |  |
| 単位数   | 3  |  |
| 法定時間数 | 90   |  |
| 担当教官名 | 田端 里美  |  |
| 授業の目標 | 総論、循環系、呼吸系、消化系、泌尿系、生殖系、内分泌系、感覚系の位置・構造・機能について理解します。   |  |
| 指導計画  | <p>(前期内容)</p> <p>オリエンテーション</p> <p>第1章 人体の構造</p> <p>1 細胞</p> <p>2 組織</p> <p>第2章 循環器系</p> <p>1 血管系</p> <p>2 心臓</p> <p>3 動脈系</p> <p>4 静脈系</p> <p>5 胎児循環</p> <p>6 リンパ系</p> <p>第3章 呼吸器系</p> <p>1 鼻腔・副鼻腔</p> <p>2 咽頭・喉頭</p> <p>3 気管と気管支</p> <p>4 肺</p> <p>第4章 消化器系</p> <p>1 消化管の基本構造</p> <p>2 口腔</p> <p>3 咽頭</p> <p>4 食道</p> <p>5 胃</p> <p>6 小腸</p> <p>7 大腸</p> <p>8 肝臓</p> <p>9 胆嚢</p> <p>10 膵臓</p> | <p>1</p> <p>10</p> <p>12</p> <p>10</p> <p>12</p> |
|       | 前期計  | 45   |



|               |  |  |
|---------------|--|--|
|               | (後期内容)<br>第5章 泌尿器系<br>1 腎臓<br>2 尿路<br>第6章 生殖器系<br>1 男性生殖器<br>2 女性生殖器<br>3 受精と発生<br>第7章 内分泌系<br>1 下垂体<br>2 松果体<br>3 甲状腺<br>4 上皮小体<br>5 副腎<br>6 膵臓<br>7 性腺<br>第9章 感覚器系<br>1 視覚器<br>2 平衡・聴覚器<br>3 味覚器<br>4 嗅覚器<br>5 皮膚(第1章の3) | 10<br><br>12<br><br>13<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>10 |
|               | 後期計  | 45   |
|               | 年度末計   | 90   |
| 成績評価の方法       | <p>理療教育実施細則に基づき、前期末・後期末評価(筆記試験)の平均点を学<br/>           年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。<br/>           また、形成適評価のため、6月・11月に中間評価を行います。</p>   |  |
| 履修上の留意点       | <p>教科書や図譜で理解しにくい詳細な部分について、拡大模型を使って説明し<br/>           ます。</p>   |  |
| 予習・復習の<br>進め方 | <p>予習:教科書やデイジーを使って次回授業で習う大凡の内容を把握してくだ<br/>           さい。<br/>           復習:授業の内容・教科書やデイジー・配布資料を使って、くり返し記憶し<br/>           てください。</p>   |  |
| 使用教科書         | <p>解剖学&lt;第2版&gt;テキスト版、図譜版 【河野邦雄他著/医歯薬出版】</p>  |  |
| 参考書/参考資料      | <p>まとめの資料を配付します。</p>   |  |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|                  |   |    |
|------------------|---|----|
| 課程               | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |    |
| 学年               | 1年生   |    |
| 科目名              | 関係法規  |    |
| 単位数              | 1単位   |    |
| 法定時間数            | 30時間  |    |
| 担当教官名            | 石川 健  |    |
| 授業の目標            | <p>施術者として必要なあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の業務に関係する法令について教授し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を修得する。</p>  |    |
| 指<br>導<br>計<br>画 | <p>[前期]</p> <p>1. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における免許(6時間)</p> <p>①免許の資格要件</p> <p>②免許に関する事務(免許申請等)</p> <p>③身分の消滅と復活(消除、取り消し等)</p> <p>2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における業務(6時間)</p> <p>①業務の独占と業務範囲</p> <p>②施術に関する注意(制限行為、禁止行為)</p> <p>③施術所などに関する規制(構造設備等)</p> <p>④施術所の名称の制限及び広告の制限</p> <p>⑤業務の停止、無免許営業の取り締まり</p> <p>3. 罰則 (1時間)</p> <p>①あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する罰則</p> <p>②あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師施術所に関する罰則</p> <p>4. 医療・公衆衛生に関する法律</p> <p>①医療法の概要 (1時間)</p> <p>②医師法の概要 (1時間)</p>   | 15 |
|                  | 前期計   | 15 |
| 指<br>導<br>計<br>画 | <p>[後期]</p> <p>4. 医療・公衆衛生に関する法律</p> <p>③保健師助産師看護師法の概要(1時間)</p> <p>④柔道整復師法の概要(1時間)</p> <p>⑤医薬品、医療機器等法(0.5時間)</p> <p>⑥薬剤師法の概要(0.5時間)</p> <p>⑦地域保健法の概要(0.5時間)</p> <p>⑧健康増進法の概要(1時間)</p> <p>⑨高齢者医療の確保に関する法律の概要(1時間)</p> <p>⑩感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要(0.5時間)</p> <p>5. 社会福祉に関する法律</p> <p>①児童福祉法の概要(0.5時間)</p> <p>②身体障害者福祉法の概要(1時間)</p> <p>③知的障害者福祉法の概要(0.5時間)</p> <p>④精神保健福祉法の概要(1時間)</p> <p>⑤老人福祉法の概要(0.5時間)</p> <p>⑥介護保険法の概要(1時間)</p> <p>⑦生活保護法の概要(0.5時間)</p> <p>⑧障害者総合支援法の概要(1時間)</p> <p>6. その他、国家試験出題基準関連 (3時間)</p> | 15 |
|                  | 後期計   | 15 |

|           | 年度末計  | 30 |
|-----------|---|----|
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とする。(小数点第1位は切り捨て)  |    |
| 履修上の留意点   |   |    |
| 予習・復習の進め方 | 教科書や配布資料を精読し内容の理解に努めるとともに、理解が難しい場合は教官に質問する等して知識の整理に努めてください。 |    |
| 使用教科書     | 岡村文夫・芦野純夫 編<br>「医療と関係法規」(改訂第7版)                             |    |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。  |    |

教科指導計画書(シラバス)

|                   |   |   |
|-------------------|---|---|
| 課程                | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |   |
| 学年                | 1年A組  |   |
| 科目名               | 経絡経穴概論 I  |   |
| 単位数               | 3単位   |   |
| 法定時間数             | 90時間  |   |
| 担当教官名             | 天野光二  |   |
| 授業の目標             | あん摩マッサージ指圧師として必要な経絡経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。             |   |
| 指導計画              | 前期内容  |   |
|                   | 1. オリエンテーション  | 1 |
|                   | 2. 経絡経穴の基礎  | 8 |
|                   | (1) 経絡・経穴の誕生  |   |
|                   | (2) 臓腑の概要   |   |
|                   | (3) 経絡の概要   |   |
| (4) 経穴の概要         |   |   |
| 3. 経脈・経穴          | 36  |   |
| (1) 経穴の取り方に必要な用語  |   |   |
| (2) 十四経脈とその経穴     |   |   |
| ①督脈               |   |   |
| ②任脈               |   |   |
| ③手太陰肺経            |   |   |
| ④手陽明大腸経           |   |   |
| ⑤足陽明胃経            |   |   |
| ⑥足太陰脾経            |   |   |
| 前期計               | 45  |   |
| 後期内容              |   |   |
| ⑦手少陰心経            | 42  |   |
| ⑧手太陽小腸経           |   |   |
| ⑨足太陽膀胱経           |   |   |
| ⑩足少陰腎経            |   |   |
| ⑪手厥陰心包経           |   |   |
| ⑫手少陽三焦経           |   |   |
| ⑬足少陽胆経            |   |   |
| ⑭足厥陰肝経            |   |   |
| 4. 経絡・経穴の現代的な研究   | 3   |   |
| (1) 経絡現象          |   |   |
| (2) 経穴の概念と現代科学的研究 |   |   |
| 後期計               | 45  |   |
| 年度末計              | 90  |   |
| 成績評価の方法           | 前期末と後期末に筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とする。  |   |
| 履修上の留意点           | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施する。<br>講義はホームルーム教室で行うが、取穴実技のために実習室を使用することがある。  |   |
| 予習・復習の進め方         | 記憶を定着させるために、復習は欠かさないこと。実際に取穴すると効果的です。教科書に沿って授業を進めますので、授業に慣れてきたら予習をすること。 |   |
| 使用教科書             | 新版 経絡経穴概論 第2版   |   |
| 参考書/参考資料          | 必要に応じて配布します。  |   |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|             |   |    |
|-------------|---|----|
| 課程          | 専門課程  |    |
| 学年          | 1年A組  |    |
| 科目名         | 自然科学概論  |    |
| 単位数         | 2単位   |    |
| 法定時間数       | 30時間  |    |
| 担当教官名       | 桑崎哲治  |    |
| 授業の目標       | 理療教科における学習に必要な自然科学についての基礎的な概念、原理、法則等を教授し、日常生活における科学的な能力と態度を修得する。  |    |
| 指導計画        | 前期内容  |    |
|             | オリエンテーション   | 1  |
|             | I. 細胞の発見と顕微鏡  |    |
|             | 1. 顕微鏡の発明   | 2  |
|             | 2. 細胞の発見  | 2  |
|             | 3. 細胞についての研究  | 2  |
|             | 4. 細胞説  | 1  |
|             | 5. 顕微鏡 光学顕微鏡と電子顕微鏡  | 2  |
|             | 6. 顕微鏡の中の長さの単位  | 3  |
|             | 7. 細胞と顕微鏡   | 1  |
| 前期のまとめ      | 1   |    |
| 前期試験講評      | 1   |    |
| 前期計         |   | 16 |
| 後期内容        | 8. 細胞の分画と蛋白質の分離   | 2  |
|             | II. 細胞の分類   |    |
|             | 1. 細胞とは   | 1  |
|             | 2. 原核細胞と真核細胞  | 2  |
|             | III. 原子   |    |
|             | 1. 陽子・中性子・電子  | 1  |
|             | 2. 元素記号、原子番号と質量数  | 2  |
|             | IV. 化学結合  |    |
|             | 1. イオン結合  | 2  |
|             | 2. 共有結合   | 1  |
| 後期試験までのまとめ  | 1   |    |
| 後期試験講評      | 1   |    |
| V. 細胞の化学的成分 |   |    |
| 1. 元素       | 3   |    |
| 2. 水        | 2   |    |
| 後期計         |   | 18 |
| 年度末計        |   | 34 |
| 成績評価の方法     | 理療教育実施細則のに基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)  |    |
| 履修上の留意点     | 中間期評価は実施しません。   |    |
| 予習・復習の進め方   | 講義は事前に配布する資料を用いて進めます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。<br>講義後は配付資料を精通して復習し、内容理解に努めてください。<br>自己学習しても理解できないところがあれば、次の講義までに質問してください。 |    |
| 使用教科書       | ありませんが、教科書となる資料を配付します。  |    |
| 参考書/参考資料    | 必要に応じて配布します。  |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|   |  |    |
|---|--|----|
| 課程  | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程  |    |
| 学年  | 1年A組   |    |
| 科目名   | 社会科学概論   |    |
| 単位数   | 2単位  |    |
| 法定時間数   | 30時間   |    |
| 担当教官名   | 前田 貴子  |    |
| 授業の目標   | 社会保障制度(社会保険・社会福祉・公的扶助等)のうち社会福祉を中心に教授し、今後の仕事も含めた自らの自立生活を豊かなものとするために必要なことは何か気づいてもらいそれを利活用できるようになることを目的とする。                           |    |
| 指導計画  | 前期内容   |    |
|   | 1. オリエンテーション   | 1  |
|   | 2. 社会保障のしくみと、社会福祉の理念および意義について概要を説明する。<br>①社会保障とは<br>②福祉・社会福祉とは一福祉の語源から始める<br>③社会福祉の理念－生存権(憲法25条から考える)・自立・共生                        | 2  |
|   | 3. 我国の社会福祉の歴史について古代から現代まで学習し、先人の取組みを紹介する。<br>①社会福祉のなりたち－古代から近世まで<br>②社会福祉の展開－明治から現代まで  | 4  |
|   | 4. 今日の社会保障のしくみと費用について、社会福祉・公的扶助・社会保険を中心に事例や統計を用いて具体的に説明する。<br>①社会福祉のしくみ(法体系)<br>②公的扶助・社会保険のしくみ<br>③社会保障の費用と財源                      | 5  |
|   | 前期計  | 12 |
|   | 後期内容   |    |
|   | 5. 障害者福祉の概要を説明後、提供されるサービス内容と福祉制度の基本的な知識を身に付け、就労も含めた今後の利活用につなげる。<br>①障害者福祉とは／障害者の歴史<br>②障害のとらえ方と障害者の実態<br>③身体障害者の福祉<br>④視覚障害者の福祉・就労 | 9  |
| 6. 日本の高齢社会の特徴及び高齢者福祉の現状とこれからを学習後、介護保険制度のしくみについて基本的な知識を身につける。<br>①日本の高齢社会の特徴と課題<br>②介護保険制度のしくみ | 7  |    |
| 7. 福祉先進国から学ぶ  | 3  |    |
| 後期計   | 19   |    |
| 年度末計  | 31   |    |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、各学期末に行われる期末試験(筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)   |    |
| 履修上の留意点   | 成績評価は期末一斉試験期間に実施し、中間試験は実施しません。   |    |
| 予習・復習の進め方   | ①テキストを配布しますので、授業の前や後に読んでおいて下さい。<br>また、普段からテレビのニュースや新聞をできるだけ見るように心がけて下さい。<br>②毎回の授業の最後に学習の要点をまとめた練習問題を解きますので必ず復習し内容の理解に努めて下さい。      |    |
| 使用教科書   | 教官作成のテキスト及び練習問題(墨字・点字・データ版)を使用します。   |    |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。   |    |

令和1年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |    |
|-----------|--|----|
| 課程        | 専門課程   |    |
| 学年        | 1年生 A  |    |
| 科目名       | 人文科学概論   |    |
| 単位数       | 2単位  |    |
| 法定時間数     | 30時間   |    |
| 担当教官名     | 小野澤 昇  |    |
| 授業の目標     | 1, 良好な人間関係のもととなるコミュニケーション能力、医療従事者として必要な「言葉の力」の向上を目指す。<br>2, 日常の言語生活にポイントを置き、文学作品を読み味わうと同時に、俳句を作るという活動を通して、言語活動の楽しさ・面白さを体験していく。 |    |
| 指導計画      | オリエンテーション 人文科学概論で学習すること  | 1  |
|           | コミュニケーション 挨拶について<br>自己紹介をする<br>他己紹介をする<br>敬語法<br>言語活動の実践   | 6  |
|           | 言葉と季節 エッセイを読む<br>俳句<br>季語<br>言語感覚<br>創作(俳句を作る)   | 5  |
|           | 前期学習のまとめ 復習する  | 1  |
|           | 前期計  | 13 |
|           | オリエンテーション 後期で学習すること  | 1  |
|           | 古典に触れる 徒然草・枕草子・竹取物語・平家物語<br>月の異名・方位・時刻   | 5  |
|           | 医療の古典 養生訓  | 3  |
|           | 漢文 論語を読む   | 3  |
|           | 新俳句・川柳 鑑賞と創作   | 3  |
|           | 鑑賞 小説・詩  | 2  |
|           | 後期学習のまとめ   | 1  |
|           | 後期計  | 18 |
|           | 年度末計   | 31 |
| 成績評価の方法   | 筆記試験、授業で課した課題・創作への取り組みを総合して評価します。  |    |
| 履修上の留意点   | 年間で1回、俳句・短歌などの創作作品を提出してください。   |    |
| 予習・復習の進め方 | 毎回の授業後に、振り返り学習をしてください。<br>俳句・短歌などの創作には、意欲的に取り組んでください。コンクールへの応募にチャレンジしていきましょう。  |    |
| 使用教科書     | 授業内容に応じ、プリントを作成・配付します。(墨字・テキストデータ・DAISY)   |    |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配付します。   |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |    |
|-----------|--|----|
| 課程        | 専門課程   |    |
| 学年        | 1年A組   |    |
| 科目名       | 生理学 I  |    |
| 単位数       | 2  |    |
| 法定時間数     | 60   |    |
| 担当教官名     | 水元 ひろみ   |    |
| 授業の目標     | 施術に必要な人体の機能を系統的に理解し、施術に必要な知識の習得を目指す。                             |    |
| 指導計画      | オリエンテーション  | 1  |
|           | 第1章 生理学の基礎   | 4  |
|           | 第2章 循環   | 10 |
|           | 第3章 呼吸   | 10 |
|           | 第4章 消化と吸収  | 4  |
|           | ※前期中間試験  | 1  |
|           | 前期計  | 30 |
|           | 第4章 消化と吸収  | 7  |
|           | 第5章 代謝   | 6  |
|           | 第6章 体温   | 6  |
|           | 第7章 排泄   | 10 |
|           | ※後期中間試験  | 1  |
|           | 後期計  | 30 |
|           | 年度末計   | 60 |
| 成績評価の方法   | 前期後期の期末試験により学年末評価を行う。評価指針に基づき評価を行うが、平常点は加味せずに、筆記試験のみの点数により評価を行う。 |    |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。                                    |    |
| 予習・復習の進め方 | 解剖学の学習内容と併せて復習することで、より知識の定着につながります。單元ごとに出す練習問題に取り組むようにしてください。    |    |
| 使用教科書     | 人体の構造と機能 生理学第3版 医歯薬出版  |    |
| 参考書/参考資料  | 授業で必要に応じて配布または紹介します。   |    |



| 令和元年度 教科指導計画書(シラバス) |  |               |
|---------------------|--|---------------|
| 課程                  | 専門課程   |               |
| 学年                  | 1年A組・B組  |               |
| 科目名                 | 東洋医学概論 I   |               |
| 単位数                 | 2単位  |               |
| 法定時間数               | 60時間   |               |
| 担当教官名               | 青柳 達也  |               |
| 授業の目標               | あん摩マッサージ指圧師として、必要な東洋医学の概念・診察法及び治療法などの基本的事項について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。  |               |
| 指導計画及び授業時数          | (前期)東洋医学の特徴・陰陽五行論・気血津液・臓腑の整理作用について学習します。   | 授業時数:30時間(予定) |
|                     | (後期)病因論・八綱病証・気血津液病証・臓腑病証・経脈病証・四診法について学習します。  | 授業時数:30時間(予定) |
|                     |  | 合計6:60時間(予定)  |
| 成績評価の方法             | <p>療養教育実施細則に基づき、前期期末・後期期末の平均点の学年末評価(小数点第1位切り下げ)が60点以上の場合、単位修得となります。学年末評価が50~59点の場合、再評価(補講・試験)を受けて、再評価試験評価が60点以上で単位修得となります。</p>   |               |
| 履修上の留意点             | 6月・11月に形成的評価のため、2回中間試験を行います。   |               |
| 予習・復習の進め方           | <p>墨字学習者の場合、予習は授業前までに教科書を熟読し、わからない箇所があれば教科書に印をつけたリメモを取ってください。また、教科書以外でわからなかった箇所があればそのメモも取ってください。復習は授業中資料に印やアンダーラインをつけたり、メモを取った箇所をデータ入力したり手書きのノートを作成してください。(まとめの作成)それを記憶してください。音声学習者の場合、予習は授業前までに教科書を数回聞いておいてください。また、わからない箇所があれば記憶しておいてください。復習は、授業で録音した部分を編集してまとめを作成してください。そのまとめを記憶してください</p> |               |
| 使用教科書               | 矢野忠著「基礎保健療養 I (東洋医学一般)日本ライトハウス 刊   |               |
| 参考書/参考資料            |  |               |

教科指導計画書(シラバス)

|                       |   |    |
|-----------------------|---|----|
| 課程                    | 専門課程  |    |
| 学年                    | 1年A組  |    |
| 科目名                   | 保健体育  |    |
| 単位数                   | 1単位   |    |
| 法定時間数                 | 30時間  |    |
| 担当教官名                 | 藤本 茂記   |    |
| 授業の目標                 | (1) 健康の保持増進のための運動を理解する。<br>(2) スポーツの楽しさ、身体活動の爽快さを体験する。<br>(3) ルールを遵守する姿勢や礼儀を学び習得する。   |    |
| 指導計画                  | 前期内容  |    |
|                       | 1. オリエンテーション  | 1  |
|                       | 2. 体力測定(筋力、柔軟性、敏捷性、筋持久力)  | 2  |
|                       | 3. 身体局所の動き(ラジオ体操第Ⅰ)   | 2  |
|                       | 4. ゴールボール   | 4  |
| 5. フライングディスク(ディスリート5) | 2   |    |
| 6. サウンドテーブルテニス        | 3   |    |
| 7. トレーニング(自重、機器)      | 1   |    |
| 前期計                   |   | 15 |
| 指導計画                  | 後期内容  |    |
|                       | 8. 身体局所の動き(ラジオ体操第Ⅱ)   | 2  |
|                       | 9. フロアバレーボール  | 5  |
|                       | 10. ポッチャ(団体)  | 2  |
|                       | 11. 陸上競技(歩、走)   | 2  |
|                       | 12. ストレッチ(静的)   | 1  |
|                       | 13. 運動処方(エアロバイク)  | 2  |
|                       | 14. レクリエーションゲーム   | 1  |
| 後期計                   |   | 15 |
| 年度末計                  |   | 30 |
| 成績評価の方法               | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも実技試験及び口頭試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)   |    |
| 履修上の留意点               | 中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更する場合があります。  |    |
| 予習・復習の進め方             | ラジオ体操第1やラジオ体操第2の放送時刻を把握し、「ラジオ体操第1・第2」の動きを学習してください。<br>また既習の内容については、体育的行事の活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。<br>事前・事後の学習は欠かさないようにしてください。 |    |
| 使用教科書                 | なし。(必要に応じて資料等を配布します)  |    |
| 参考書/参考資料              | 競技規則集。競技規則の解説。障がい者スポーツ指導の手引き。   |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |     |
|-----------|--|-----|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、灸 専門課程   |     |
| 学年        | 1年生  |     |
| 科目名       | あん摩マッサージ指圧基礎実習 I   |     |
| 単位数       | 4単位  |     |
| 法定時間数     | 120時間  |     |
| 担当教官名     | 石川 健   |     |
| 授業の目標     | 施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術に関する基礎的な知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。   |     |
| 指導計画      | <b>【前期】</b><br>(1) 施術への導入<br>① あん摩マッサージ指圧の意義と役割<br>② 施術者としての心構え(身だしなみや言葉使い等)<br>③ 施術室の管理<br>④ 施術用具の取扱い<br>⑤ 衛生管理(手指の消毒を含む)<br>⑥ リスク管理<br>(2) あん摩の基礎<br>① 基本手技(軽擦法、圧迫法、揉捏法、叩打法、曲手)<br>② 身体各部への施術<br>ア. 座位のあん摩(肩背部、上肢のあん摩) |     |
|           | 前期計  | 60  |
|           | <b>【後期】</b><br>② 身体各部への施術<br>側臥位のあん摩(肩背部、頸部、上肢、下肢のあん摩)<br>③ あん摩による全身施術<br>側臥位、腹臥位、坐位の全身施術  |     |
|           | 後期計  | 60  |
|           | 年度末計   | 120 |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも実技試験)の平均点を学年末評価とする。(小数点第1位は切り捨て)   |     |
| 履修上の留意点   |  |     |
| 予習・復習の進め方 | 学習した基本主義について授業以外の時間帯にも反復継続して訓練し、正確な手技ができるように努めてください。手技の再現が難しい場合は教官に質問するなどして、技能の向上を図るようにしてください。   |     |
| 使用教科書     | 盲学校理療科教科書編纂委員会 編<br>東京都立文盲学校理療科研究会 著<br>「理療基礎実習」<br>日本ライトハウス 刊   |     |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。   |     |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |          |
|-----------|---|----------|
| 課程        | 専門課程  |          |
| 学年        | 1年生   |          |
| 科目名       | あん庫マッサージ指圧基礎実習Ⅱ   |          |
| 単位数       | 2単位   |          |
| 法定時間数     | 60時間  |          |
| 担当教官名     | 皆川 剛  |          |
| 授業の目標     | 術式は教科書を基本として、年間の到達目標は手技治療法としてのマッサージの歴史や意義、マッサージの基本手技と術式を理解し習得、習熟することにより、基礎的な技術と能力の根底を養うことにある。保健医療を始め各種適応疾患に対応できるようになるためのマッサージの基礎を上級学年に繋がるように指導する。<br>前期は専ら身体の使い方(重心移動)を習得し、後期に個々の手技、術式の基礎を習得する。   |          |
| 指導計画      | <p>前期内容<br/>(2時間)<br/>大項目…マッサージ施術への導入(総論)<br/>小項目…マッサージの概要<br/>指導内容…スケジュールと目的と評価について①意義と沿革、②施術者としての心構え、③施術室の清潔、④手指の消毒と服装、⑤施術用具の管理、⑥作用機序の概要、⑦施術方法(あんまとの相違点・施術上の注意事項)<br/>指導上の留意点、備考…治療としての手技療法を理解させる。</p> <p>(2時間)<br/>大項目…マッサージの基本手技<br/>小項目…①軽擦法、②圧迫法、③揉捏法、④叩打法<br/>指導内容…マッサージの基本手技について紹介・体験し、その概要を学習する。<br/>指導上の留意点、備考…各種手技に応じた手の使い方を理解させる。</p> <p>(12時間)<br/>大項目…身体各部のマッサージ<br/>小項目…①前腕<br/>指導内容…前腕部の基本術式を学習し、マッサージの各種手技に習熟させる。<br/>指導上の留意点、備考…手の使い方や動かし方を具体的に指導する。</p> <p>(8時間)<br/>小項目…②下腿<br/>指導内容…下腿部の基本術式を学習し、マッサージの各種手技に習熟させる。<br/>指導上の留意点、備考…術者の体や手の位置について指導する。</p> <p>(4時間)<br/>復習と評価</p>  | 前期計 30時間 |
|           | 前期計   | 30       |
|           | <p>後期内容<br/>(2時間)<br/>大項目…マッサージの基本手技<br/>小項目…①按摩法(強擦法)<br/>指導内容…マッサージの基本手技について紹介し、その概要を学習する。<br/>指導上の留意点、備考…各種手技に応じた手の使い方を理解する。</p> <p>(4時間)<br/>大項目…各関節のマッサージの施術<br/>小項目…①手関節<br/>指導内容、備考…手関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び手関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…初めて行う按摩法の意義を理解させ、正しく手を用いるよう指導する。</p> <p>(4時間)<br/>小項目…②足関節<br/>指導内容…足関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び足関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…按摩を起こしやすい場所でもあるので、関節の構造をよく理解して施術するよう指導する。</p> <p>(8時間)<br/>小項目…③肩関節<br/>指導内容…肩関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び肩関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…術者の体や手の位置を工夫して施術するよう指導する。</p> <p>(4時間)<br/>小項目…④膝関節<br/>指導内容…膝関節の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術及び膝関節の可動域保持に関わる運動操作等について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…種々な膝関節障害を想定して指導する。</p> <p>(4時間)<br/>大項目…顔面のマッサージの施術<br/>小項目…<br/>指導内容…顔面の軟部組織(筋・腱・靭帯など)に対するマッサージ施術について学習する。<br/>指導上の留意点、備考…術者の手の位置や移動については十分配慮するよう指導する。</p> <p>(6時間)<br/>復習と評価</p> |          |
|           | 後期計   | 30       |
|           | 年度末計  | 60       |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則のに基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)<br>評価は、前後期末試験の選までに実技試験を実施。  |          |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。   |          |
| 予習・復習の進め方 | 予習よりも復習が中心となります。既習の内容について、関連科目の内容も含めて振り返り、特に実技は繰り返し行うこと。  |          |
| 使用教科書     | (1)理療基礎実習   |          |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布。   |          |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|                                       |   |    |
|---------------------------------------|---|----|
| 課程                                    | 専門課程  |    |
| 学年                                    | 1年B組  |    |
| 科目名                                   | あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ   |    |
| 単位数                                   | 2   |    |
| 法定時間数                                 | 60  |    |
| 担当教官名                                 | 岩本 稔  |    |
| 授業の目標                                 | 臨床に向けた基礎的な能力と態度を養う。そのため腹臥位、仰臥位といった全身指圧操作の基本術式を修得する。                 |    |
| 指導計画                                  | 前期内容  |    |
|                                       | 1 導入(指圧の意義、沿革、身体各部の名称など)  | 2  |
|                                       | 2 基本手技の紹介(通常圧、持続圧、衝圧、緩圧、吸引圧、母指圧、四指圧、手掌圧など腰部仙骨部でおこなう)                | 4  |
|                                       | 3 全身指圧操作の基本術式(1手技2回でおこなう。)  | 24 |
|                                       | 第1節 腹臥位の施術をおこなう。  |    |
| 前期計                                   |   | 30 |
| 後期内容                                  | 3 前期の続き(全身指圧操作の基本術式(1手技2回でおこなう。)                                    | 28 |
|                                       | 第1節 腹臥位の施術から第4節仰臥位の施術までおこなう。ただし矯正法はおこなわない。)                         |    |
| 4 全身指圧操作の基本術式(1手技2回でおこなう。時間は80分～90分。) |   | 2  |
| 後期計                                   |   | 30 |
| 年度末計                                  |   | 60 |
| 成績評価の方法                               | 理療教育課評価指針に基づき、各学期末に80点満点で期末試験を行う。残りの20点分については平常点として評価する。            |    |
| 履修上の留意点                               | 体表観察および解剖学、経絡経穴の復習も行いながら実施する。                                       |    |
| 予習・復習の進め方                             | 解剖学における身体の方角(橈側や尺側等)や運動(屈曲や伸展等)を予習してください。修正を指導された内容など、反復して復習してください。 |    |
| 使用教科書                                 | 理療基礎実習上巻  |    |
| 参考書/参考資料                              | 必要に応じて配布  |    |

令和元年度教科指導計画書(シラバス)

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 課程        | 専門課程  |  |
| 学年        | 1年B組  |  |
| 科目名       | はりきゅう基礎実習 I   |  |
| 単位数       | 3単位   |  |
| 法定時間数     | 90時間  |  |
| 担当教官名     | 青柳 達也   |  |
| 授業の目標     | 施術者として必要な鍼施術に関する基礎的な知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。  |  |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>(1)施術への導入(施術者としての注意事項・衛生管理・リスク管理などを習得します。)</p> <p>(2)施鍼の基礎(はりの名称・消毒法などを習得します。)</p> <p>(3)基本手技<br/>片手挿管や刺鍼練習器での(直刺)を連続的に行う動作を習得します。</p> <p>(4)以下の身体各部位への刺鍼(寸3 2番鍼、寸6 2番鍼)を習得します。<br/>ア 自身の下腿 イ 下腿部、ウ 前腕部</p> <p>(5)主な経穴への刺鍼を習得します。</p> <p>前期 計 45時間</p> |  |
|           | <p>後期内容</p> <p>(1)施鍼の基礎(斜刺・地平鍼・刺鍼転向法などを習得します。)</p> <p>(2)基本手技(置鍼・雀啄などを習得します。)</p> <p>(3)以下の身体各部位への刺鍼(寸3 1番鍼、寸6 1番鍼など)を習得します。<br/>ア 前腕部、イ 腰部、ウ 背部、エ 肩関節部、オ 頸部、カ 頭部、キ胸腹部、ク 顔面部、ケ 膝関節周辺</p> <p>(5)主な経穴への施鍼を習得します。</p> <p>後期 計 45時間</p>                                   |  |
|           | 年度末 計 90時間  |  |
|           |   |  |
| 成績評価の方法   | <p>理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り下げ)それが60点以上で単位修得となります。なお、再評価は行いません。</p>   |  |
| 履修上の留意点   | <p>①実習における身なりを整えます。特に白衣、頭髪、爪などに留意します。</p> <p>②事故防止のため、指示された部位以外への刺鍼は禁止とします。</p> <p>③欠席しないよう健康などに留意します。</p>  |  |
| 予習・復習の進め方 | <p>学習した内容については復習しておきます。(学習した経穴の取穴法)</p>   |  |
| 使用教科書     | <p>臨床基礎実習(第2版)Ⅲ 盲学校理療教科用図書編纂委員会編 日本ライトハウス</p>   |  |
| 参考書/参考資料  | <p>新版経絡経穴概論 日本ライトハウス 刊</p>  |  |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |    |
|-----------|--|----|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程  |    |
| 学年        | 1年B組   |    |
| 科目名       | はりきゅう基礎実習Ⅱ   |    |
| 単位数       | 2単位  |    |
| 法定時間数     | 60時間   |    |
| 担当教官名     | 水元 ひろみ   |    |
| 授業の目標     | 施術者として必要な灸施術に関する基礎的な知識と技能について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。   |    |
| 指導計画      | 前期内容   |    |
|           | 1. オリエンテーション   | 1  |
|           | 2. 施術への導入  | 1  |
|           | 3. 施灸の基礎   | 1  |
|           | 4. 基本的施灸法<br>(1) 透熱灸法<br>(2) 知熱灸法<br>(3) 隔物灸法  | 27 |
| 前期計       | 30   |    |
| 後期内容      | (4) 温灸器具を用いた灸法   | 30 |
|           | (5) 身体各部への施灸   |    |
|           | (6) 主な経穴への施灸   |    |
|           | (7) 施灸による全身調整法   |    |
| 後期計       | 30   |    |
| 年度末計      | 60   |    |
| 成績評価の方法   | 前期末と後期末に実技試験を実施し、その平均点を学年末評価とする。   |    |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため、観察法による評価を行う。  |    |
| 予習・復習の進め方 | 実技練習は日々行うことが望ましい。ただし、事故や防災等に留意し、原則として実習室で行い、実習室以外では火器を使用しないこと。また、授業時間以外の事故については自己責任になります。※「理療教育における施設や設備の利用等マニュアル(利用者向け)」第8章 授業時間以外に実技練習を行うときの注意事項参照 |    |
| 使用教科書     | 理療基礎実習   |    |
| 参考書/参考資料  | 資料は必要に応じて配布します。  |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |  |
| 学年        | 1年B組  |  |
| 科目名       | 解剖学 I   |  |
| 単位数       | 4単位   |  |
| 法定時間数     | 120時間   |  |
| 担当教官名     | 池田正道  |  |
| 授業の目標     | 骨系、筋系、神経系の位置・形態・構造とその運動について理解する。  |  |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 人体の区分と方向</p> <p>3. 運動器系(骨格系)</p> <p>(1)総論</p> <p>(2)脊柱</p> <p>(3)胸郭</p> <p>(4)上肢の骨格、上肢の関節と運動</p> <p>(5)下肢の骨格、下肢の関節と運動</p> <p>(6)頭蓋骨</p> <p>4. 運動器系(筋系)</p> <p>(1)総論</p> <p>(2)体幹 1. 体幹の筋、運動、局所解剖</p>  | <p>1</p> <p>2</p> <p>45</p> <p>2</p> <p>10</p> <p>60</p> |
|           | 前期計   | 60   |
|           | 後期内容  |  |
|           | <p>4. 運動器系(筋系)</p> <p>(2)体幹 1. 体幹の筋、運動、局所解剖</p> <p>(3)上肢 1. 上肢の筋、運動、局所解剖</p> <p>(4)下肢 1. 下肢の筋、運動、局所解剖</p> <p>(5)頭頸部 1. 頭頸部の体表および局所解剖</p> <p>5. 解剖見学実習</p> <p>6. 神経系</p> <p>(1)神経系の構成</p> <p>(2)中枢神経系</p> <p>(3)伝導路</p> <p>(4)末梢神経系</p> <p>7. 基礎運動学</p> <p>(1)てこと滑車</p> <p>(2)人体の重心と姿勢</p> | <p>28</p> <p>4</p> <p>26</p> <p>2</p>                    |
|           | 後期計   | 60   |
|           | 年度末計  | 120  |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)   |  |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。   |  |
| 予習・復習の進め方 | 解剖学は2年、3年で履修する科目の基礎となる科目です。また、あん摩や鍼の実技でも解剖学の知識は重要となります。試験前の学習だけで点数がとれたとしても、それは自分自身の知識とはならず、忘れてしまい、そのことは他の学習や実技にも大きく影響します。授業が終わったら必ずその内容を復習してください。教科書をよく読み込み十分に理解しておくことが大切です。また、わからないことがあればそのまま放置せず質問するようにして下さい。   |  |
| 使用教科書     | 解剖学<第2版>テキスト版、図譜版 【河野邦雄他著/医歯薬出版】  |  |
| 参考書/参考資料  | 基礎運動学の内容については資料を作成し配布します。   |  |



平成31年度 教科指導計画書(シラバス)

|       |   |   |
|-------|---|---|
| 課 程   | 専門課程  |   |
| 学 年   | 1年A組・B組 共通  |   |
| 科目名   | 解剖学Ⅱ  |   |
| 単位数   | 3   |   |
| 法定時間数 | 90  |   |
| 担当教官名 | 田端 里美   |   |
| 授業の目標 | 総論、循環系、呼吸系、消化系、泌尿系、生殖系、内分泌系、感覚系の位置・構造・機能について理解します。  |   |
| 指導計画  | (前期内容)<br>オリエンテーション<br>第1章 人体の構造<br>1 細胞<br>2 組織<br>第2章 循環器系<br>1 血管系<br>2 心臓<br>3 動脈系<br>4 静脈系<br>5 胎児循環<br>6 リンパ系<br>第3章 呼吸器系<br>1 鼻腔・副鼻腔<br>2 咽頭・喉頭<br>3 気管と気管支<br>4 肺<br>第4章 消化器系<br>1 消化管の基本構造<br>2 口腔<br>3 咽頭<br>4 食道<br>5 胃<br>6 小腸<br>7 大腸<br>8 肝臓<br>9 胆嚢<br>10 膵臓 | 1<br>10<br><br><br><br>12<br><br><br><br><br><br><br>10<br><br><br><br><br><br><br>12 |
|       | 前期計   | 45  |

|               |  |                      |
|---------------|--|----------------------|
|               | (後期内容)<br>第5章 泌尿器系<br>1 腎臓<br>2 尿路<br>第6章 生殖器系<br>1 男性生殖器<br>2 女性生殖器<br>3 受精と発生<br>第7章 内分泌系<br>1 下垂体<br>2 松果体<br>3 甲状腺<br>4 上皮小体<br>5 副腎<br>6 膵臓<br>7 性腺<br>第9章 感覚器系<br>1 視覚器<br>2 平衡・聴覚器<br>3 味覚器<br>4 嗅覚器<br>5 皮膚(第1章の3) | 10<br>12<br>13<br>10 |
|               | 後期計  | 45                   |
|               | 年度末計   | 90                   |
| 成績評価の方法       | <p>理療教育実施細則に基づき、前期末・後期末評価(筆記試験)の平均点を学<br/>           年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。<br/>           また、形成適評価のため、6月・11月に中間評価を行います。</p>   |                      |
| 履修上の留意点       | <p>教科書や図譜で理解しにくい詳細な部分について、拡大模型を使って説明し<br/>           ます。</p>   |                      |
| 予習・復習の<br>進め方 | <p>予習:教科書やデイジーを使って次回授業で習う大凡の内容を把握してくだ<br/>           さい。<br/>           復習:授業の内容・教科書やデイジー・配布資料を使って、くり返し記憶し<br/>           てください。</p>   |                      |
| 使用教科書         | <p>解剖学&lt;第2版&gt;テキスト版、図譜版 【河野邦雄他著/医歯薬出版】</p>  |                      |
| 参考書/参考資料      | <p>まとめの資料を配付します。</p>   |                      |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|                  |   |    |
|------------------|---|----|
| 課 程              | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |    |
| 学 年              | 1年生   |    |
| 科 目 名            | 関係法規  |    |
| 単 位 数            | 1単位   |    |
| 法定時間数            | 30時間  |    |
| 担当教官名            | 石川 健 印  |    |
| 授業の目標            | <p>施術者として必要なあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の業務に関する法令について教授し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を修得する。</p>   |    |
| 指<br>導<br>計<br>画 | <p>[前期]</p> <p>1. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における 免許（6時間）</p> <p>①あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許の資格要件</p> <p>②あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許に関する事務(免許申請等)</p> <p>③あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の身分の消滅と復活(消除、取り消し等)</p> <p>2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における業務(6時間)</p> <p>①あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務の独占と業務範囲</p> <p>②あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術に関する注意(制限行為、禁止行為)</p> <p>③あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術所などに関する規制(構造設備等)</p> <p>④あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師施術所の名称の制限及び広告の制限</p> <p>⑤あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの業務の停止、無免許営業の取り締まり</p> <p>3. 罰則（1時間）</p> <p>①あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する罰則</p> <p>②あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師施術所に関する罰則</p> <p>4. 医療・公衆衛生に関する法律</p> <p>①医療法の概要（1時間）</p> <p>②医師法の概要（1時間）</p> |    |
|                  | 前期計   | 15 |

|           |   |    |
|-----------|---|----|
| 指導計画      | <p>[後期]</p> <p>4. 医療・公衆衛生に関する法律</p> <p>③保健師助産師看護師法の概要(1時間)</p> <p>④柔道整復師法の概要(1時間)</p> <p>⑤医薬品、医療機器等法(0.5時間)</p> <p>⑥薬剤師法の概要(0.5時間)</p> <p>⑦地域保健法の概要(0.5時間)</p> <p>⑧健康増進法の概要(1時間)</p> <p>⑨高齢者医療の確保に関する法律の概要(1時間)</p> <p>⑩感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要(0.5時間)</p> <p>5. 社会福祉に関する法律</p> <p>①児童福祉法の概要(0.5時間)</p> <p>②身体障害者福祉法の概要(1時間)</p> <p>③知的障害者福祉法の概要(0.5時間)</p> <p>④精神保健福祉法の概要(1時間)</p> <p>⑤老人福祉法の概要(0.5時間)</p> <p>⑥介護保険法の概要(1時間)</p> <p>⑦生活保護法の概要(0.5時間)</p> <p>⑧障害者総合支援法の概要(1時間)</p> <p>6. その他、国家試験出題基準関連 (3時間)</p> |    |
|           | 後期計   | 15 |
|           | 年度末計  | 30 |
| 成績評価の方法   | <p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とする。(小数点第1位は切り捨て)</p>   |    |
| 履修上の留意点   |   |    |
| 予習・復習の進め方 | <p>教科書や配布資料を精読し内容の理解に努めるとともに、理解が難しい場合は教官に質問する等して知識の整理に努めてください。</p>  |    |
| 使用教科書     | <p>岡村文夫・芦野純夫 編<br/>「医療と関係法規」(改訂第7版)</p>   |    |
| 参考書/参考資料  | <p>必要に応じて配布します。</p>   |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|                   |   |   |
|-------------------|---|---|
| 課程                | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |   |
| 学年                | 1年B班  |   |
| 科目名               | 経絡経穴概論 I  |   |
| 単位数               | 3単位   |   |
| 法定時間数             | 90時間  |   |
| 担当教官名             | 松本 元司 印   |   |
| 授業の目標             | あん摩マッサージ指圧師として必要な経絡経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。       |   |
| 指導計画              | 前期内容  |   |
|                   | 1. オリエンテーション  | 1 |
|                   | 2. 経絡経穴の基礎  | 8 |
|                   | (1) 経絡・経穴の誕生  |   |
|                   | (2) 臓腑の概要   |   |
|                   | (3) 経絡の概要   |   |
| (4) 経穴の概要         |   |   |
| 3. 経脈・経穴          | 36  |   |
| (1) 経穴の取り方に必要な用語  |   |   |
| (2) 十四経脈とその経穴     |   |   |
| ①督脈               |   |   |
| ②任脈               |   |   |
| ③手太陰肺経            |   |   |
| ④手陽明大腸経           |   |   |
| ⑤足陽明胃経            |   |   |
| ⑥足太陰脾経            |   |   |
| 前期計               | 45  |   |
| 後期内容              |   |   |
| ⑦手少陰心経            | 42  |   |
| ⑧手太陽小腸経           |   |   |
| ⑨足太陽膀胱経           |   |   |
| ⑩足少陰腎経            |   |   |
| ⑪手厥陰心包経           |   |   |
| ⑫手少陽三焦経           |   |   |
| ⑬足少陽胆経            |   |   |
| ⑭足厥陰肝経            |   |   |
| 4. 経絡・経穴の現代的な研究   | 3   |   |
| (1) 経絡現象          |   |   |
| (2) 経穴の概念と現代科学的研究 |   |   |
| 後期計               | 45  |   |
| 年度末計              | 90  |   |
| 成績評価の方法           | 前期末と後期末に筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とする。                                  |   |
| 履修上の留意点           | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施する。<br>講義はホームルーム教室で行うが、取穴実技のために実習室を使用する。 |   |
| 予習・復習の進め方         | 授業開始時に前回の学習内容の復習を行い終了時に次回の学習内容を伝達する。                              |   |
| 使用教科書             | 新版 経絡経穴概論 第2版   |   |
| 参考書/参考資料          | 必要に応じて配布する。   |   |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|                |   |    |
|----------------|---|----|
| 課程             | 専門課程  |    |
| 学年             | 1年B組  |    |
| 科目名            | 自然科学概論  |    |
| 単位数            | 2単位   |    |
| 法定時間数          | 30時間  |    |
| 担当教官名          | 桑崎哲治  |    |
| 授業の目標          | 理療教科における学習に必要な自然科学についての基礎的な概念、原理、法則等を教授し、日常生活における科学的な能力と態度を修得する。  |    |
| 指導計画           | 前期内容<br>オリエンテーション   | 1  |
|                | I. 細胞の発見と顕微鏡  |    |
|                | 1. 顕微鏡の発明   | 2  |
|                | 2. 細胞の発見  | 2  |
|                | 3. 細胞についての研究  | 2  |
|                | 4. 細胞説  | 1  |
|                | 5. 顕微鏡 光学顕微鏡と電子顕微鏡  | 2  |
| 6. 顕微鏡の中の長さの単位 | 2   |    |
| 7. 細胞と顕微鏡      | 1   |    |
| 前期のまとめ         | 1   |    |
| 前期試験講評         | 1   |    |
| 前期計            |   | 15 |
| 後期内容           | 8. 細胞の分画と蛋白質の分離   | 2  |
|                | II. 細胞の分類   |    |
|                | 1. 細胞とは   |    |
|                | 2. 原核細胞と真核細胞  | 1  |
|                | III. 原子   |    |
|                | 1. 陽子・中性子・電子  | 1  |
|                | 2. 元素記号、原子番号と質量数  | 1  |
|                | IV. 化学結合  |    |
|                | 1. イオン結合  | 2  |
|                | 2. 共有結合   | 2  |
| 後期試験までのまとめ     | 1   |    |
| 後期試験講評         | 1   |    |
| V. 細胞の化学的成分    |   |    |
| 1. 元素          | 2   |    |
| 2. 水           | 2   |    |
| 後期計            |   | 15 |
| 年度末計           |   | 30 |
| 成績評価の方法        | 理療教育実施細則のに基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)  |    |
| 履修上の留意点        | 中間期評価は実施しません。   |    |
| 予習・復習の進め方      | 講義は事前に配布する資料を用いて進めます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。<br>講義後は配付資料を精通して復習し、内容理解に努めてください。<br>自己学習しても理解できないところがあれば、次の講義までに質問してください。 |    |
| 使用教科書          | ありませんが、教科書となる資料を配付します。  |    |
| 参考書/参考資料       | 必要に応じて配布します。  |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|  |   |    |
|--|---|----|
| 課程   | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |    |
| 学年   | 1年B組  |    |
| 科目名  | 社会科学概論  |    |
| 単位数  | 2単位   |    |
| 法定時間数  | 30時間  |    |
| 担当教官名  | 前田 貴子   |    |
| 授業の目標  | 社会保障制度(社会保険・社会福祉・公的扶助等)のうち社会福祉を中心に教授し、今後の仕事も含めた自らの自立生活を豊かなものとするために必要なことは何か気づいてもらいそれを利活用できるようになることを目的とする。                      |    |
| 指導計画   | 前期内容  |    |
|  | 1. オリエンテーション  | 1  |
|  | 2. 社会保障のしくみと、社会福祉の理念および意義について概要を説明する。<br>①社会保障とは<br>②福祉・社会福祉とは一福祉の語源から始める<br>③社会福祉の理念－生存権(憲法25条から考える)・自立・共生                   | 3  |
|  | 3. 我国の社会福祉の歴史について古代から現代まで学習し、先人の取組みを紹介する。<br>①社会福祉のなりたち－古代から近世まで<br>②社会福祉の展開－明治から現代まで   | 6  |
|  | 4. 今日の社会保障のしくみと費用について、社会福祉・公的扶助・社会保険を中心に事例や統計を用いて具体的に説明する。<br>①社会福祉のしくみ(法体系)<br>②公的扶助・社会保険のしくみ<br>③社会保障の費用と財源                 | 6  |
|  | 前期計   | 16 |
|  | 後期内容  |    |
| 5. 障害者福祉の概要を説明後、提供されるサービス内容と福祉制度の基本的な知識を身に付け、就労も含めた今後の利活用につなげる。<br>①障害者福祉とは／障害者の歴史<br>②障害のとらえ方と障害者の実態<br>③身体障害者の福祉<br>④視覚障害者の福祉・就労 | 8   |    |
| 6. 日本の高齢社会の特徴及び高齢者福祉の現状とこれからを学習後、介護保険制度のしくみについて基本的な知識を身につける。<br>①日本の高齢社会の特徴と課題<br>②介護保険制度のしくみ                                      | 6   |    |
| 7. 福祉先進国から学ぶ   | 3   |    |
| 後期計  | 17  |    |
| 年度末計   | 33  |    |
| 成績評価の方法  | 理療教育実施細則に基づき、各学期末に行われる期末試験(筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)  |    |
| 履修上の留意点  | 成績評価は期末一斉試験期間に実施し、中間試験は実施しません。  |    |
| 予習・復習の進め方  | ①テキストを配布しますので、授業の前や後に読んでおいて下さい。<br>また、普段からテレビのニュースや新聞をできるだけ見るように心がけて下さい。<br>②毎回の授業の最後に学習の要点をまとめた練習問題を解きますので必ず復習し内容の理解に努めて下さい。 |    |
| 使用教科書  | 教官作成のテキスト及び練習問題(墨字・点字・データ版)を使用します。  |    |
| 参考書/参考資料   | 必要に応じて配布します。  |    |

令和1年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |    |
|-----------|--|----|
| 課程        | 専門課程   |    |
| 学年        | 1年生 B  |    |
| 科目名       | 人文科学概論   |    |
| 単位数       | 2単位  |    |
| 法定時間数     | 30時間   |    |
| 担当教官名     | 小野澤 昇  |    |
| 授業の目標     | 1, 良好な人間関係のもととなるコミュニケーション能力、医療従事者として必要な「言葉の力」の向上を目指す。<br>2, 日常の言語生活にポイントを置き、文学作品を読み味わうと同時に、俳句を作るという活動を通して、言語活動の楽しさ・面白さを体験していく。 |    |
| 指導計画      | オリエンテーション 人文科学概論で学習すること  | 1  |
|           | コミュニケーション 挨拶について<br>自己紹介をする<br>他己紹介をする<br>敬語法<br>言語活動の実践   | 6  |
|           | 言葉と季節 エッセイを読む<br>俳句<br>季語<br>言語感覚<br>創作(俳句を作る)   | 5  |
|           | 前期学習のまとめ 復習する  | 1  |
|           | 前期計  | 13 |
|           | オリエンテーション 後期で学習すること  | 1  |
|           | 古典に触れる 徒然草・枕草子・竹取物語・平家物語<br>月の異名・方位・時刻   | 5  |
|           | 医療の古典 養生訓  | 3  |
|           | 漢文 論語を読む   | 3  |
|           | 新俳句・川柳 鑑賞と創作   | 3  |
|           | 鑑賞 小説・詩  | 2  |
|           | 後期学習のまとめ   | 1  |
|           | 後期計  | 18 |
|           | 年度末計   | 31 |
| 成績評価の方法   | 筆記試験、授業で課した課題・創作への取り組みを総合して評価します。  |    |
| 履修上の留意点   | 年間で1回、俳句・短歌などの創作作品を提出してください。   |    |
| 予習・復習の進め方 | 毎回の授業後に、振り返り学習をしてください。<br>俳句・短歌などの創作には、意欲的に取り組んでください。コンクールへの応募にチャレンジしていきましょう。  |    |
| 使用教科書     | 授業内容に応じ、プリントを作成・配付します。(墨字・テキストデータ・DAISY)   |    |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配付します。   |    |



令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |    |
|-----------|--|----|
| 課程        | 専門課程   |    |
| 学年        | 1年B組   |    |
| 科目名       | 生理学 I  |    |
| 単位数       | 2  |    |
| 法定時間数     | 60   |    |
| 担当教官名     | 水元 ひろみ   |    |
| 授業の目標     | 施術に必要な人体の機能を系統的に理解し、施術に必要な知識の習得を目指す。                             |    |
| 指導計画      | オリエンテーション  | 1  |
|           | 第1章 生理学の基礎   | 4  |
|           | 第2章 循環   | 10 |
|           | 第3章 呼吸   | 10 |
|           | 第4章 消化と吸収  | 4  |
|           | ※前期中間試験  | 1  |
|           | 前期計  | 30 |
|           | 第4章 消化と吸収  | 7  |
|           | 第5章 代謝   | 6  |
|           | 第6章 体温   | 6  |
| 第7章 排泄    | 10   |    |
| ※後期中間試験   | 1  |    |
| 後期計       | 30   |    |
| 年度末計      | 60   |    |
| 成績評価の方法   | 前期後期の期末試験により学年末評価を行う。評価指針に基づき評価を行うが、平常点は加味せずに、筆記試験のみの点数により評価を行う。 |    |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。                                    |    |
| 予習・復習の進め方 | 解剖学の学習内容と併せて復習することで、より知識の定着につながります。單元ごとに出す練習問題に取り組むようにしてください。    |    |
| 使用教科書     | 人体の構造と機能 生理学第3版 医歯薬出版  |    |
| 参考書/参考資料  | 授業で必要に応じて配布または紹介をします。  |    |

| 令和元年度 教科指導計画書(シラバス) |  |               |
|---------------------|--|---------------|
| 課程                  | 専門課程   |               |
| 学年                  | 1年A組・B組  |               |
| 科目名                 | 東洋医学概論 I   |               |
| 単位数                 | 2単位  |               |
| 法定時間数               | 60時間   |               |
| 担当教官名               | 青柳 達也  |               |
| 授業の目標               | あん摩マッサージ指圧師として、必要な東洋医学の概念・診察法及び治療法などの基本的事項について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。  |               |
| 指導計画及び授業時数          | (前期)東洋医学の特徴・陰陽五行論・気血津液・臓腑の整理作用について学習します。   | 授業時数:30時間(予定) |
|                     | (後期)病因論・八綱病証・気血津液病証・臓腑病証・経脈病証・四診法について学習します。  | 授業時数:30時間(予定) |
|                     |  | 合計6:60時間(予定)  |
| 成績評価の方法             | <p>療養教育実施細則に基づき、前期期末・後期期末の平均点の学年末評価(小数点第1位切り下げ)が60点以上の場合、単位修得となります。学年末評価が50~59点の場合、再評価(補講・試験)を受けて、再評価試験評価が60点以上で単位修得となります。</p>   |               |
| 履修上の留意点             | 6月・11月に形成的評価のため、2回中間試験を行います。   |               |
| 予習・復習の進め方           | <p>墨字学習者の場合、予習は授業前までに教科書を熟読し、わからない箇所があれば教科書に印をつけたリメモを取ってください。また、教科書以外でわからなかった箇所があればそのメモも取ってください。復習は授業中資料に印やアンダーラインをつけたり、メモを取った箇所をデータ入力したり手書きのノートを作成してください。(まとめの作成)それを記憶してください。音声学習者の場合、予習は授業前までに教科書を数回聞いておいてください。また、わからない箇所があれば記憶しておいてください。復習は、授業で録音した部分を編集してまとめを作成してください。そのまとめを記憶してください</p> |               |
| 使用教科書               | 矢野忠著「基礎保健療養 I (東洋医学一般)日本ライトハウス 刊   |               |
| 参考書/参考資料            |  |               |

教科指導計画書(シラバス)

|                       |   |    |
|-----------------------|---|----|
| 課程                    | 専門課程  |    |
| 学年                    | 1年B組  |    |
| 科目名                   | 保健体育  |    |
| 単位数                   | 1単位   |    |
| 法定時間数                 | 30時間  |    |
| 担当教官名                 | 藤本 茂記   |    |
| 授業の目標                 | (1) 健康の保持増進のための運動を理解する。<br>(2) スポーツの楽しさ、身体活動の爽快さを体験する。<br>(3) ルールを遵守する姿勢や礼儀を学び習得する。   |    |
| 指導計画                  | 前期内容  |    |
|                       | 1. オリエンテーション  | 1  |
|                       | 2. 体力測定(筋力、柔軟性、敏捷性、筋持久力)  | 2  |
|                       | 3. 身体局所の動き(ラジオ体操第Ⅰ)   | 2  |
|                       | 4. ゴールボール   | 4  |
| 5. フライングディスク(ディスリート5) | 2   |    |
| 6. サウンドテーブルテニス        | 3   |    |
| 7. トレーニング(自重、機器)      | 1   |    |
| 前期計                   |   | 15 |
| 指導計画                  | 後期内容  |    |
|                       | 8. 身体局所の動き(ラジオ体操第Ⅱ)   | 2  |
|                       | 9. フロアバレーボール  | 5  |
|                       | 10. ポッチャ(団体)  | 2  |
|                       | 11. 陸上競技(歩、走)   | 2  |
|                       | 12. ストレッチ(静的)   | 1  |
|                       | 13. 運動処方(エアロバイク)  | 2  |
|                       | 14. レクリエーションゲーム   | 1  |
| 後期計                   |   | 15 |
| 年度末計                  |   | 30 |
| 成績評価の方法               | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも実技試験及び口頭試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)   |    |
| 履修上の留意点               | 中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更する場合があります。  |    |
| 予習・復習の進め方             | ラジオ体操第1やラジオ体操第2の放送時刻を把握し、「ラジオ体操第1・第2」の動きを学習してください。<br>また既習の内容については、体育的行事の活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。<br>事前・事後の学習は欠かさないようにしてください。 |    |
| 使用教科書                 | なし。(必要に応じて資料等を配布します)  |    |
| 参考書/参考資料              | 競技規則集。競技規則の解説。障がい者スポーツ指導の手引き。   |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |  |
| 学年        | 2年A組  |  |
| 科目名       | あん摩マッサージ指圧応用実習 I  |  |
| 単位数       | 4単位   |  |
| 法定時間数     | 120時間   |  |
| 担当教官名     | 池田正道  |  |
| 授業の目標     | <p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p>   |  |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>1. 1年次の復習</p> <p>2. 部位別の施術</p> <p>(1)肩背部</p> <p>(2)上肢</p> <p>(3)頭頸部</p> <p>(4)腰殿部</p> <p>(5)下肢</p> <p>3. 肢位別の施術</p> <p>(1)側臥位</p> <p>(2)伏臥位</p> <p>(3)仰臥位</p> <p>(4)坐位</p> <p>※2と3は同時に行います。</p> <p>○前期中間・期末試験(講評、臨床実習前実技試験等を含む)</p>  | <p>4</p> <p>52</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>●臨床実習前試験等</p> <p>(1)環境整備(設備・器具の準備及び片付け)</p> <p>(2)医療面接</p> <p>(3)身だしなみ、医療接遇、マナー</p> <p>(4)身体診察と取穴法</p> <p>(5)取穴及び取穴法</p> <p>(6)患者への説明と同意</p> <p>(7)施術の実践</p> <p>(8)安全な施術操作とリスク管理</p> <p>(9)施術結果の把握</p> <p>(10)施術後の対応(患者への説明・配慮)</p> </div> |
|           |   | 6  |
|           |   | 62   |
|           | <p>2. 疾患別の施術</p> <p>A. 運動器系</p> <p>(1)肩こり、頸肩腕症候群</p> <p>(2)腰下肢痛</p> <p>(3)五十肩</p> <p>(4)変形性関節症(膝関節症、股関節症)</p> <p>(5)腱鞘炎</p> <p>(6)捻挫の後遺症</p> <p>※授業の進行状況により、前期で上記の疾患を扱う場合があります。</p> <p>B. スポーツ障害に対する総合施術</p> <p>(1)アキレス腱断裂</p> <p>(2)ジャンパー膝</p> <p>(3)テニス肘</p> <p>5. 各種物療器具の取り扱い</p> <p>7. 模擬臨床実習</p> <p>○前期中間・期末試験(講評、臨床実習前実技試験等を含む)</p> | <p>42</p> <p>8</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>6</p>  |
|           | 後期計   | 62   |
|           | 年度末計  | 124  |
| 成績評価の方法   | <p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも実技試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)</p> <p>また、前期中間・期末、後期中間・期末の中で指導要領に記載されている臨床実習前実技試験等の内容についての評価を行います。</p>   |  |
| 履修上の留意点   |   |  |
| 予習・復習の進め方 | <p>できるだけ早いうちに60分位で施術できる自分自身の術式を完成させて下さい。自分自身の型ができるのと臨床に出て緊張してもなんとか施術できるものです。授業以外の場でも施術の流れをイメージしておくことは大切です。同様に問診や診察においても授業の内容を軸に教科書等を見て自分自身の方法・手順を確立するようにして下さい。</p>  |  |
| 使用教科書     | 理療基礎実習【盲学校理療教科用図書編纂委員会編/日本ライトハウス】   |  |
| 参考書/参考資料  | あん摩マッサージ指圧理論、東洋医学臨床論  |  |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 課程        | 専門課程  |  |
| 学年        | 2年A組  |  |
| 科目名       | あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ   |  |
| 単位数       | 2   |  |
| 法定時間数     | 60  |  |
| 担当教官名     | 岩本 稔  |  |
| 授業の目標     | <p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について修得し、併せて施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p>  |  |
| 指導計画      | <p>前期</p> <p>1. オリエンテーション 2時間</p> <p>2. 施術者としての態度及び診察等について 2時間</p> <p>3. 1年次の知識と技能の確認 8時間</p> <p>4. 疾患別施術について 8時間</p> <p>    (1) 呼吸器系</p> <p>        ① 咳嗽 ② 気管支喘息</p> <p>前期中間試験(臨床実習前施術実技試験、講評含む) 4時間</p> <p>    (2) 循環器系 6時間</p> <p>        ① 高血圧症</p> <p>前期期末試験(臨床実習前施術実技試験、講評含む) 4時間</p> <p>前期計 34</p> <p>後期</p> <p>1. 疾患別施術について 6時間</p> <p>    (3) 消化器系</p> <p>        ① 胃炎 ② 便秘・下痢</p> <p>    (4) 婦人科系 6時間</p> <p>        ① 月経異常 ② 更年期障害</p> <p>後期中間試験(臨床実習前施術実技試験、講評含む) 4時間</p> <p>    (5) その他 6時間</p> <p>        ① 頭痛 ② 神経痛(三叉神経痛、特発性肋間神経痛)</p> <p>後期期末試験(臨床実習前施術実技試験、講評含む) 4時間</p> <p>2. 臨床実習に向けた全身施術 4時間</p> <p>3. 模擬臨床実習 4時間</p> <p>後期計 34</p> <p>年度末計 68</p> |  |
| 成績評価の方法   | 実技試験を行い評価する。また普段の授業の様子からも衛生面、態度面を評価する。  |  |
| 履修上の留意点   | 臨床を意識した態度で臨むよう指導する。   |  |
| 予習・復習の進め方 | 各疾患の概要、鑑別方法等資料で事前に渡すので予習を行ってください。   |  |
| 使用教科書     | 東京都立文教育学校理療科研究会著 理療基礎実習(下巻)   |  |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布  |  |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|       |  |   |
|-------|--|---|
| 課程    | 専門課程   |   |
| 学年    | 2年生  |   |
| 科目名   | はりきゅう応用実習 I  |   |
| 単位数   | 4単位  |   |
| 法定時間数 | 120時間  |   |
| 担当教官名 | 今泉正博   |   |
| 授業の目標 | <p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。また、臨床実習前施術実技試験を通して、技術や態度等に関する臨床実習参加のための総合的評価を行う。</p>   |   |
| 指導計画  | <p>1. 基礎技術の確認<br/>                 2. 臨床入門<br/>                 3. 各種鍼療法の指導<br/>                 (1) 小児鍼法<br/>                 (2) 皮内鍼法(円皮鍼)<br/>                 4. 症候別施術応用(日常遭遇しやすい症候への施術)<br/>                 1) 運動器系<br/>                 (1) 肩こり、頸肩腕症候群<br/>                 (2) 腰痛(坐骨神経痛含む)<br/>                 (3) 五十肩<br/>                 (4) 変形性関節症(膝関節症、股関節症)<br/>                 ※ 前期中間期・期末試験(講評、臨床実習前施術実技試験を含む)</p>  | <p>6時間<br/>15時間<br/>5時間<br/>30時間<br/>6時間</p>  |
|       | 前期計  | 62時間  |
|       | <p>5. 症候別施術応用(日常遭遇しやすい症候への施術)<br/>                 1) 運動器系<br/>                 (5) 腱鞘炎<br/>                 (6) 捻挫の後遺症<br/>                 (7) スポーツ障害に対する総合施術<br/>                 ① アキレス腱断裂 ② ジャンパー膝 ③ テニス肘<br/>                 6. 各疾患に対する特殊鍼法<br/>                 (1) 頸肩腕部疾患<br/>                 頸部交感神経幹近傍刺鍼(星状神経節刺鍼)<br/>                 (2) 坐骨神経痛<br/>                 坐骨神経節刺鍼<br/>                 7. はり、灸施術に応用できる物理療法<br/>                 (1) 温熱療法<br/>                 (2) 光線療法<br/>                 (3) 電気療法<br/>                 (4) その他<br/>                 7. 模擬臨床実習<br/>                 臨床前試験等により患者に対して施術を行うに足りる総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることが確認できた場合、2月中・下旬を目処に模擬臨床実習を実施する。<br/>                 ※ 後期中間期・期末試験(講評、臨床実習前施術実技試験を含む)</p> | <p>27時間<br/>15時間<br/>10時間<br/>4時間<br/>6時間</p> |
|       | 後期計  | 62時間  |
|       | 年度末計   | 124時間   |

|           |   |
|-----------|---|
| 成績評価の方法   | 理教教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)  |
| 履修上の留意点   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実技技能を身につける科目のため、健康管理に心がけて欠席は極力避けること。</li> <li>2. 普段から自身や白衣等の清潔保持の意識を高めること。</li> <li>3. 実習中は、特に鍼刺し事故等の過誤が生じないように充分留意すること。</li> <li>4. 年間を通して、応用的施術法だけでなく、臨床実習に向けた一連の流れを身につけることに留意する。</li> <li>5. 各学期の中間期、期末試験を臨床実習前施術実技試験として、講評と合わせて12時間実施する。</li> <li>6. 臨床実習参加に著しい課題があると実技担当者が判断した場合、必要に応じて他の理療科教官も評価に加わることがある。</li> </ol> |
| 予習・復習の進め方 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この実習には、解剖学、臨床医学総論、理療臨床医学各論、経絡経穴概論の内容も含まれるため、事前に関連科目の関連内容を確認しておいて下さい。特に診察に関連する解剖学的構造や疾患の概念、症状、徒手検査法の目的及び手順、経穴の取穴法について、復習をして実習に臨んで下さい。</li> <li>2. この実習は反復学習が必要となります。授業時間外に少なくとも週2回、各1時間程度のトレーニングをして下さい。その際は授業中に説明した注意事項を必ず守るようにして下さい。</li> </ol>   |
| 使用教科書     | 理療基礎実習第2版 東京都立文京盲学校理療科研究会著  |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布する。   |

令和元年度教科指導計画書(シラバス)

|                               |   |    |
|-------------------------------|---|----|
| 課程                            | 専門課程  |    |
| 学年                            | 2年  |    |
| 科目名                           | 鍼灸応用実習Ⅱ   |    |
| 単位数                           | 2   |    |
| 法定時間数                         | 60  |    |
| 担当教官名                         | 田端里美  |    |
| 授業の目標                         | <p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得します。また、臨床実習前施術実技試験を通して、技術や態度等に関する臨床実習参加のための総合的評価を行います。</p> |    |
| 指導計画                          | 前期内容  |    |
|                               | オリエンテーション   | 1  |
|                               | 基礎的技術の復習  | 4  |
|                               | 基本的刺鍼 撚鍼法   | 4  |
|                               | 特殊な鍼 低周波鍼通電療法   | 12 |
| 疾患別治療法                        |   |    |
| 1. 呼吸器科 ①咳嗽 ②気管支喘息            | 5   |    |
| 2. 循環器科 ①高血圧症                 | 5   |    |
| [前期中間期・期末試験]講評・臨床実習前施術実技試験を含む | 3   |    |
|                               | 前期計   | 34 |
| 指導計画                          | 後期内容  |    |
|                               | 3. 消化器科 ①胃炎 ②便秘と下痢  | 5  |
|                               | 4. 婦人科 ①月経異常 ②更年期障害   | 5  |
|                               | 反射検査の実際 ①表在反射 ②深部反射   | 6  |
|                               | 知覚検査の実際 ①表在知覚 ②深部知覚   | 6  |
| 5. 神経系 ①頭痛 ②神経痛 ③片麻痺          | 5   |    |
| [後期中間期・期末試験]講評・臨床実習前施術実技試験を含む | 3   |    |
|                               | 後期計   | 30 |
|                               | 年度末計  | 64 |
| 成績評価の方法                       | <p>理療教育実施細則に基づき、前期・後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。</p>  |    |
| 履修上の留意点                       | 健康管理に心がけましょう。   |    |
|                               | 白衣・爪・髪を、清潔に保ちましょう。  |    |
|                               | 鍼刺し事故等の過誤を起こさないよう、慎重に練習しましょう。   |    |
|                               | 各学期の中間期・期末評価の中で、臨床実習前施術実技試験を、評価・講評と合わせて6時間行います。   |    |
|                               | 臨床実習参加について著しい課題があると担当教官が判断した場合は、必要に応じて他の理療科教官も評価に加わります。   |    |
| 予習・復習の進め方                     | <p>予習は、教科書をよく読んでおいてください。復習は、習ったことを反復練習してください。</p>   |    |
| 使用教科書                         | 東京都立文京盲学校理療科研究会著 理療基礎実習   |    |
| 参考書/参考資料                      | 必要に応じて配布します。  |    |



令和元年度教科指導計画書（シラバス）

|       |   |
|-------|---|
| 課程    | 専門課程  |
| 学 年   | 2年  |
| 科目名   | 経絡経穴概論Ⅱ   |
| 単位数   | 2   |
| 法定時間数 | 60  |
| 担当教官名 | 田端里美  |
| 授業の目標 | 奇経（任脈・督脈を除く）並びに奇穴について、経脈流注と部位を正しく理解し、取穴できるようにします。十四経・要穴等の復習を行い、国試鍼灸科に対応する知識の定着を図ると共に、臨床実習に対応できるよう取穴の練習をします。 |

| 指導計画      | 前期内容  | 時間数 |
|-----------|---|-----|
|           | オリエンテーション   | 1   |
|           | 奇経 衝脈   | 10  |
|           | 帯脈  |     |
|           | 陽蹻脈   |     |
|           | 陰蹻脈   |     |
|           | 陽維脈   |     |
|           | 陰維脈   |     |
|           | 奇穴 頭頸部  | 10  |
|           | 胸腹部   |     |
|           | 背腰部   |     |
|           | 上肢部   |     |
|           | 下肢部・よく使われる経穴の組み合わせ  |     |
|           | 要穴 隙穴   | 4   |
|           | 背部輸血  |     |
|           | 四総穴・八脈交会穴   |     |
|           | 八会穴・下合穴   |     |
|           | 復習 督脈   | 5   |
|           | 任脈  |     |
|           | 手の太陰肺経  |     |
|           | 手の陽明大腸経   |     |
|           | 前期計   | 30  |
|           | 後期内容  | 時間数 |
|           | 復習 足の陽明胃経   | 25  |
|           | 足の太陰脾経  |     |
|           | 手の少陰心経  |     |
|           | 手の太陽小腸経   |     |
|           | 足の太陽膀胱経   |     |
|           | 足の少陰腎経  |     |
|           | 手の厥陰心包経   |     |
|           | 手の少陽三焦経   |     |
|           | 足の少陽胆経  |     |
|           | 足の厥陰肝経  |     |
|           | 総合 横並びの経穴   | 4   |
|           | まぎらわしい経穴  | 1   |
|           | 後期計   | 30  |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末と後期末に筆記試験を行い、その平均点を評価とします。                      |     |
| 履修上の留意点   | 6月・11月に、形成的評価のための筆記試験をおこないます。模型や身体を使って取穴し、見えなくても分かりやすいように工夫します。 |     |
| 予習・復習の進め方 | 予習は、漢字の読み方や部位の確認などを重点に行ってください。復習は、習ったところをノートにまとめ、部位の確認を行ってください。 |     |
| 使用教科書     | 新版経絡・経穴概論日本理療科教員連盟・東洋療法学校協会編                                    |     |
| 参考資料      | 必要に応じて配布します。  |     |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |   |  |
|-----------|---|---|--|
| 課程        | 専門課程  |   |  |
| 学年        | 2年生   |   |  |
| 科目名       | 自然科学概論  |   |  |
| 単位数       | 2単位   |   |  |
| 法定時間数     | 30時間  |   |  |
| 担当教官名     | 桑崎哲治  |   |  |
| 授業の目標     | 理療教科における学習に必要な自然科学についての基礎的な概念、原理、法則等を教授し、日常生活における科学的な能力と態度を修得する。  |   |  |
| 指導計画      | 前期内容<br>オリエンテーション<br>V. 細胞の化学的成分<br>1. 元素<br>2. 水<br>3. 小有機分子 ①糖類・②脂質・③アミノ酸<br>④ヌクレオチド DNA・RNA・ATP<br>VI. 細胞の構造と機能 1核 ①核膜<br>②核小体<br>③染色質<br>④染色体<br>2. 蛋白質の合成 ①転写<br>②翻訳<br>前期のまとめ | 1<br>1<br>1<br>1<br>3<br>1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2<br>1 |  |
|           | 前期計   | 15  |  |
|           | 後期内容<br>前期試験講評<br>VII. 細胞質の構造と機能<br>1. ミトコンドリア<br>2. リボソーム<br>3. 小胞体<br>4. ゴルジ装置<br>5. リソソーム<br>6. 中心体<br>7. 微小管<br>後期試験までのまとめ<br>後期試験講評<br>8. 細胞骨格<br>9. 細胞分裂                      | 2<br>1<br>2<br>2<br>2<br>1<br>2<br>1<br>1<br>2<br>3           |  |
|           | 後期計   | 19  |  |
|           | 年度末計  | 34  |  |
|           | 成績評価の方法   | 理療教育実施細則のに基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)  |  |
|           | 履修上の留意点   | 中間期評価は実施しません。   |  |
| 予習・復習の進め方 | 講義は事前に配布する資料を用いて進めます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。<br>講義後は配付資料を精通して復習し、内容理解に努めてください。<br>自己学習しても理解できないところがあれば、次の講義までに質問してください。   |   |  |
| 使用教科書     | ありませんが、教科書となる資料を配付します。  |   |  |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。  |   |  |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |   |  |
|-----------|---|---|--|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |   |  |
| 学年        | 2年A組  |   |  |
| 科目名       | 社会科学概論  |   |  |
| 単位数       | 2単位   |   |  |
| 法定時間数     | 30時間  |   |  |
| 担当教官名     | 前田 貴子   |   |  |
| 授業の目標     | スクリーンリーダーを用いてエクセル・カルテ名人・サピエ図書・インターネット基本操作について教授し、学習や仕事及び生活を豊かにするツールとして活用できるようにすることを目的とする。   |   |  |
| 指導計画      | 前期内容<br>1. オリエンテーション<br>2. エクセル<br>(1)起動・終了／画面構成・リボン操作<br>(2)セル・ワークシートの移動方法<br>(3)画面の拡大表示／音声の聞き取り<br>(4)エクセルの学習への活用例の紹介<br>(5)データの入力方法／テンキー配列／便利なキー操作<br>(6)USBメモリへの保存／USBメモリからの呼び出しと上書き保存<br>(7)読み辞書の編集／単語の登録<br>(8)範囲指定と切り取り・コピー・貼り付け<br>(9)フォント・配置の変更／罫線<br>(10)ワークシートの追加・削除・コピー／シート名の変更<br>(11)データ入力・編集の応用<br>(12)数式の入力<br>(13)数式の応用－外泊届・料金表作成と印刷<br>(14)関数の入力<br>(15)関数の応用－患者予約表(売上表も含)の作成 | 1<br>17   |  |
|           | 前期計   | 18  |  |
|           | 後期内容<br>3. カルテ名人<br>(1)起動・終了／画面構成／音声の聞き取り<br>(2)再診カルテへの入力<br>(3)初診カルテへの入力<br>(4)登録／印刷<br>(5)共有パソコンへの保存／検索<br><br>4. サピエ図書<br>(1)サピエ図書の基本操作<br>(2)テキストデジターの学習への活用<br><br>5. ネットリーダー<br>(1)ネットリーダーでインターネット基本操作<br>(2)学習・就労・生活への活用   | 10<br>4<br>3  |  |
|           | 後期計   | 17  |  |
|           | 年度末計  | 35  |  |
|           | 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(前期は筆記試験、後期は実地試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て) |  |
|           | 履修上の留意点   | 成績評価は期末一斉試験期間に実施し、中間試験は実施しません。                                      |  |
| 予習・復習の進め方 | ①テキストを配布しますので、授業の前に予告した範囲はひと通り目を通し、分からない部分をチェックしておきましょう。<br>②学習内容の定着を図り学んだスキルを活用できるよう、実施した課題を復習して次回の授業に臨んで下さい。  |   |  |
| 使用教科書     | 教官作成のテキスト及び練習問題(墨字・点字・デジター版・データ版)を使用します。  |   |  |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。  |   |  |

令和1年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |    |
|-----------|--|----|
| 課程        | 専門課程   |    |
| 学年        | 2年生 A  |    |
| 科目名       | 人文科学概論   |    |
| 単位数       | 2単位  |    |
| 法定時間数     | 30時間   |    |
| 担当教官名     | 小野澤 昇  |    |
| 授業の目標     | 1, 文学作品を読み味わうと同時に、短歌や独楽吟を作るという活動を通して、言語活動の楽しさ・面白さを体験していきます。<br>2, 良好な人間関係のもととなるコミュニケーション能力、医療従事者として必要な「言葉の力」の向上を目指します。 |    |
| 指導計画      | オリエンテーション 人文科学概論で学習すること  | 1  |
|           | 随想 さくらさくらさくら<br>現代の短歌<br>短歌の創作・鑑賞  | 7  |
|           | 問診と医療面接  | 3  |
|           | 古文 奥の細道  | 4  |
|           | 前期のまとめ・復習  | 1  |
|           | 前期計  | 16 |
|           | オリエンテーション 後期で学習すること  | 1  |
|           | 挨拶と人間関係  | 1  |
|           | 自己表現 スピーチ  | 2  |
|           | 漢文 故事成語  | 3  |
|           | 現代文 小説を読む  | 2  |
|           | 新聞を読む コラム  | 2  |
|           | 独楽吟 鑑賞と創作  | 4  |
|           | 音声作品を味わう 朗読  | 2  |
|           | 後期計  | 1  |
|           | 年度末計   | 18 |
|           |  | 34 |
| 成績評価の方法   | 筆記試験、授業で課した課題・創作への取り組みを総合して評価します。  |    |
| 履修上の留意点   | 前後期それぞれ1回、俳句・短歌などの創作作品を提出してください。   |    |
| 予習・復習の進め方 | 毎回の授業後に、振り返り学習をしてください。<br>短歌などの創作には、意欲的に取り組んでください。   |    |
| 使用教科書     | 授業内容に応じ、プリントを作成・配付します。(墨字・テキストデータ・DAISY)   |    |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配付します。   |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|              |   |    |
|--------------|---|----|
| 課程           | 専門課程  |    |
| 学年           | 2年A組  |    |
| 科目名          | 生理学Ⅱ  |    |
| 単位数          | 3   |    |
| 法定時間数        | 90  |    |
| 担当教官名        | 岩本 稔  |    |
| 授業の目標        | <p>施術に必要な人体の機能を系統的に教授し、施術に必要な知識の習得を目指す。<br/>また、他の科目との関連についても理解し、知識を応用できるようにする。</p>                |    |
| 指導計画         | 第8章 内分泌   | 10 |
|              | 第9章 生殖・成長と老化  | 9  |
|              | 前期中間試験  | 1  |
|              | 講評  | 1  |
|              | 第10章 神経   | 23 |
|              | 前期期末試験  |    |
|              | 講評  | 1  |
|              | 前期計   | 45 |
|              | 第10章 神経   | 5  |
|              | 第11章 筋  | 10 |
| 後期中間試験       | 1   |    |
| 講評           | 1   |    |
| 第12章 運動      | 7   |    |
| 第13章 感覚      | 4   |    |
| 後期期末試験       |   |    |
| 講評           | 1   |    |
| 第13章 感覚      | 9   |    |
| 第14章 生体の防御   | 4   |    |
| 第15章 身体活動の協調 | 3   |    |
| 後期計          | 45  |    |
| 年度末計         | 90  |    |
| 成績評価の方法      | <p>前期後期の期末試験により学年末評価を行う。評価指針に基づき評価を行うが、平常点は加味せずに、筆記試験のみの点数により評価を行う。</p>                           |    |
| 履修上の留意点      |   |    |
| 予習・復習の進め方    | <p>1年次の知識を使った内容が多数でできますので、1年次のノート・資料を復習することで2年次の内容の予習に役立ててください。各種の知識を系統立てて整理して覚えるように復習してください。</p> |    |
| 使用教科書        | <p>人体の構造と機能 生理学第2版 医歯薬出版</p>  |    |
| 参考書/参考資料     | <p>必要に応じて配布</p>   |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |  |
|-----------|--|--|
| 課程        | 専門課程   |  |
| 学年        | 2年生  |  |
| 科目名       | 東洋医学概論Ⅱ(専門分野、必須科目)   |  |
| 単位数       | 3単位  |  |
| 法定時間数     | 90時間   |  |
| 担当教官名     | 安田 晴幸  |  |
| 授業の目標     | はり師・きゅうし師として必要な東洋医学の概念、診断法及び治療法等の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。   |  |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>1.オリエンテーション 1</p> <p>2.東陽医学の基礎理論 16</p> <p>(1)東洋医学の意義と特徴</p> <p>(2)陰陽五行</p> <p>3.東洋医学の生理観 16</p> <p>(1)五臓六腑</p> <p>(2)気血津液</p> <p>4.経絡と経穴の概要 2</p> <p>5.東洋医学の疾病観・病因論 10</p> <p>(1)病因(三因・三毒説)</p> <p>(2)八綱病証</p> <p>(3)気血津液病証</p> <p>前期計 45</p> <p>後期内容</p> <p>5.東洋医学の疾病観・病因論 続き 12</p> <p>(4)臟腑病証</p> <p>(5)経絡病証</p> <p>(6)六経病証</p> <p>6.診断法 20</p> <p>(1)四診</p> <p>(2)証決定</p> <p>7.治療 13</p> <p>(1)手技療法</p> <p>(2)はりきゅう療法(補瀉・選穴・刺法)</p> <p>後期計 45</p> <p>年度末計 90</p> |  |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則のに基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)   |  |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。  |  |
| 予習・復習の進め方 | 毎回の講義内容を把握し、講義内容に関する項目を事前に学習しておいてください。<br>特に難解な漢字の読みなどは事前に調べておくこと学習がスムーズに進みます。また、暗期が必要だと言われた項目については繰り返し学習をお願いします。<br>事前・事後の学習は各自責任においてください。  |  |
| 使用教科書     | 基礎理療学Ⅰ(東洋医学概論)改訂第6版  |  |
| 参考書/参考資料  | 付録版 基礎理療学Ⅰ(東洋医学概論)改訂第6版 ・必要に応じて配布します。  |  |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |         |
|-----------|--|---------|
| 課程        | 専門課程   |         |
| 学年        | 2年生  |         |
| 科目名       | 病理学概論  |         |
| 単位数       | 2単位  |         |
| 法定時間数     | 60時間   |         |
| 担当教官名     | 松本 元司  |         |
| 授業の目標     | (1) 国家試験に対応できる知識と応用力を習得する。<br>(2) 疾病の原因や概要を理解し施術に取り組める能力を習得する。   |         |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>1. 病理学の基礎</p> <p>2. 病因の一般</p> <p>3. 内因<br/>(1)素因 (2)遺伝性疾患 (3)染色体異常 (4)アレルギー疾患<br/>(5)免疫 (6)内分泌疾患</p> <p>4 外因<br/>(1)栄養素、物理的、化学的な病因作用<br/>(2)生物学的病因作用</p>  | 1<br>29 |
|           |  | 30      |
|           | <p>後期内容</p> <p>5 循環障害<br/>(1)血液の障害:充血、うっ血、貧血、出血、血栓、塞栓、梗塞<br/>(2)リンパの障害:水腫</p> <p>6 退行性病変:萎縮、変性、壊死</p> <p>7 進行性病変:肥大、再生・化生、移植、創傷治癒、異物処理</p> <p>8 炎症:<br/>1. 概念と徴候 2. 原因 3. 経過と転帰 4. 病変 5. 全身への影響</p> <p>9 腫瘍<br/>1. 意義 2. 形態 3. 構造 4. 発育と転移 5. 悪性腫瘍の発育<br/>6. 診断 7. 宿主との相互関係 8. 原因 9. 再発 10. 分類<br/>11. 治療法</p> | 30      |
|           | 後期計  | 30      |
|           | 年度末計   | 60      |
| 成績評価の方法   | <p>理療教育実施細則の基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)</p>   |         |
| 履修上の留意点   | <p>6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。</p>   |         |
| 予習・復習の進め方 | <p>基本内容に臨床的応用内容を含む。<br/>語句の暗記だけでなく医学的な要素を繋げて内容の理解と応用力を学習する。<br/>関連科目の内容とあわせて知識の定着を図り国試のためだけでなく生活に繋がる内用の学習を取り入れる、</p>   |         |
| 使用教科書     | <p>疾病の成り立ちと予防Ⅱ(病理学概論)</p>  |         |
| 参考書/参考資料  | <p>必要に応じて配布する。</p>   |         |

教科指導計画書(シラバス)

|                              |   |    |
|------------------------------|---|----|
| 課程                           | 専門課程  |    |
| 学年                           | 2年A組  |    |
| 科目名                          | 保健体育  |    |
| 単位数                          | 1単位   |    |
| 法定時間数                        | 30時間  |    |
| 担当教官名                        | 藤本 茂記   |    |
| 授業の目標                        | (1) 健康の保持増進のための運動を理解する。<br>(2) スポーツの楽しさ、身体活動の爽快さを体験する。<br>(3) ルールを遵守する姿勢や礼儀を学び習得する。   |    |
| 指導計画                         | 前期内容  |    |
|                              | 1. オリエンテーション  | 1  |
|                              | 2. 体力測定(筋力、柔軟性、敏捷性、筋持久力、持久力)  | 1  |
|                              | 3. 身体局所の動き(みんなの体操)  | 2  |
|                              | 4. 陸上競技(投擲)   | 2  |
| 5. ゴールボール                    | 3   |    |
| 6. フライングディスク(ディスリート7、ディスタンス) | 2   |    |
| 7. グランドソフトボール                | 3   |    |
| 8. テーピング(セルフ)                | 1   |    |
| 前期計                          |   | 15 |
| 後期内容                         | 9. みんなの体操(座位)   | 1  |
|                              | 10. ブラインドテニス  | 2  |
|                              | 11. フロアバレーボール   | 3  |
|                              | 12. ポッチャ(ペア)  | 2  |
|                              | 13. ストレッチ(動的)   | 1  |
|                              | 14. ブラインドサッカー   | 2  |
|                              | 15. ゲートボール  | 1  |
|                              | 16. トレーニング(理論、実技)   | 2  |
|                              | 17. レクリエーションゲーム(運動会種目)  | 1  |
| 後期計                          |   | 15 |
| 年度末計                         |   | 30 |
| 成績評価の方法                      | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも実技試験及び口頭試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)   |    |
| 履修上の留意点                      | 中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更する場合があります。  |    |
| 予習・復習の進め方                    | テレビ体操やみんなの体操の放送時刻を把握し、「みんなの体操(立位・座位)」の動きを学習してください。<br>また既習の内容については、体育的行事の活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。<br>事前・事後の学習は欠かさないようにしてください。 |    |
| 使用教科書                        | なし。(必要に応じて資料等を配布します)  |    |
| 参考書/参考資料                     | 競技規則集。競技規則の解説。障がい者スポーツ指導の手引き。   |    |



令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |             |
|-----------|---|-------------|
| 課程        | 専門課程  |             |
| 学年        | 2年生   |             |
| 科目名       | 理療臨床医学各論(病態生理学を含む)  |             |
| 単位数       | 3単位   |             |
| 法定時間数     | 90時間  |             |
| 担当教官名     | 水元 ひろみ  |             |
| 授業の目標     | 施術者として臨床に出る際に必要となる各疾患について、概念、症状、病態生理、診断、治療に関する基礎知識を修得する。  |             |
| 指導計画      | 1. ガイダンス  | 1           |
|           | 2. 第1章 整形外科疾患<br>(保存療法と手術療法、関節疾患、骨代謝疾患・骨腫瘍、筋・腱疾患、形態異常、脊椎疾患、脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患)<br>※前期中間試験                             | 43<br><br>1 |
|           | 前期計   | 45          |
|           | 3. 第2章 神経疾患<br>(脳血管疾患、感染性疾患および脱髄性疾患、脳・脊髄疾患、基底核変性疾患、その他の変性疾患、認知症、筋疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経疾患、神経痛、頭痛)                          | 30          |
|           | 4. 第12章 一般外科<br>(外傷総論、ショック、熱傷)  | 4           |
|           | 5. 第13章 麻酔科とペインクリニック<br>(麻酔科、ペインクリニック)  | 4           |
|           | 6. 第18章 精神科疾患<br>(精神科疾患の現代の分類、心身症、神経症、気分(感情)障害と統合失調症、摂食障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)、アルコール依存症)<br>※後期中間試験                      | 6<br><br>1  |
|           | 後期計   | 45          |
|           | 年度末計  | 90          |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とする。(小数点第1位は切り捨て)  |             |
| 履修上の留意点   | (1)各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後については、それぞれ重要度を考慮して指導する。<br>(2)関連科目(解剖学、臨床医学総論等)との関連にも留意する。<br>(3)6月と11月に形成的評価のため中間試験を行う。 |             |
| 予習・復習の進め方 | 基礎となる解剖生理の復習を取り入れて予習・復習をすることで、より科目の理解につながります。单元ごとに提示する課題に取り組んでください。   |             |
| 使用教科書     | 生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)上巻・下巻<br>日本理療科教員連盟教科用図書編纂委員会編 第4版   |             |
| 参考書/参考資料  | 授業で必要に応じて配布または紹介します。  |             |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|       |  |    |
|-------|--|----|
| 課程    | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程  |    |
| 学年    | 2年生  |    |
| 科目名   | 臨床医学総論   |    |
| 単位数   | 3単位  |    |
| 法定時間数 | 90時間   |    |
| 担当教官名 | 石川 健   |    |
| 授業の目標 | 西洋医学における診断法や治療に関する知識を教授し、理療の専門性を一層高め、理療施術をより適切に行うことができるようにする。また、適宜、実習を取り入れ、必要な検査が適切に行えるようにする。  |    |
| 指導計画  | <p>【前期】</p> <p>4月第2週 1.診察法</p> <p>A.診察の概要</p> <p>a 診察の意義</p> <p>b 一般的心得</p> <p>c 関連用語の理解(予後、転帰、自覚症状、他覚症状等)</p> <p>d 診察の内容</p> <p>e プロセス</p> <p>f 記録の目的と内容</p> <p>g POS(問題志向型診療記録)、叙述的記録法(SOAP)</p> <p>B.問診(医療面接)</p> <p>a 意義と方法</p> <p>b コミュニケーション技法など</p> <p>c 主訴</p> <p>d 現病歴</p> <p>e 既往歴(発育発達歴を含む)</p> <p>f 社会歴</p> <p>g 家族歴(疾病素因を含む)</p> <p>4月第4週 C.視診</p> <p>a 意義と方法</p> <p>b 注意事項</p> <p>c 全身の観察(病的顔貌、顔色、体形、体格の異常、栄養状態、異常姿勢、起立・歩行の異常、精神状態、不随意運動、皮膚の異常、爪の異常、リンパ節など)</p> <p>d 局所の観察(頭囲と頭蓋の形、顔面、頸部・項部、胸部、腹部、上肢、下肢など)</p> <p>6月第1週 前期中間試験</p> <p>6月第1週 D.打診</p> <p>a 意義と方法</p> <p>b 注意事項</p> <p>c 打診内容(胸部、腹部)</p> <p>6月第3週 E.聴診</p> <p>a 意義と方法</p> <p>b 注意事項</p> <p>c 聴診内容(呼吸音など)</p> <p>7月第1週 F.触診</p> <p>a 意義と方法</p> <p>b 注意事項</p> <p>c 触診内容(身体各部の触診)</p> <p>7月第2週 G.測定法</p> <p>a 意義と方法</p> <p>b 注意事項</p> <p>c 身体計測</p> <p>7月第3週 H.生命徴候</p> <p>a 脈拍</p> <p>b 呼吸</p> <p>c 体温</p> <p>d 血圧</p> <p>※前期期末評価の実施</p> |    |
|       | 前期計  | 45 |

**【後期】**

**9月第4週 I.神経系の検査**

- a 意義と方法
- b 注意事項
- c 感覚検査(表在性感覚検査、深部感覚検査、複合感覚検査)
- d 反射検査(表在反射、深部反射、自律神経反射、病的反射)
- e 脳神経の検査
- f 髄膜刺激症状

**10月第3週 J.運動機能検査**

- a 徒手による整形外科的検査法
- b 関節可動域測定
- c 徒手筋力検査
- d 日常生活活動(ADL)の検査

aは臨床診察学とb～dはリハビリテーション医学と関連付けて学習する。

**10月第4週 2.臨床検査法**

**A.一般検査**

- a 尿検査の概要(尿量、比重、色、蛋白、糖、アセトン体、ウロビリニン体、ビリルビン尿、沈澱)
- b 糞便検査の概要(潜血反応、寄生虫)
- c 血液検査の概要(赤血球、ヘマトクリット、白血球、血小板色素、網赤血球、赤血球沈降速度)
- d 髄液検査の概要

**11月第2週 後期中間試験**

**B.生化学検査**

- a 血液検査の概要[総蛋白、アルブミン、A/G比、血糖、コレステロール、尿素、窒素、尿酸・クレアチニン、蛋白分画、ビリルビン、ALT、AST、CRP、Aso]など

**C.生理学的検査および画像診断の概要**

- a 心電図
- b 筋電図
- c 脳波
- d 呼吸機能検査
- e 超音波検査
- f 放射線検査
- g CTスキャン
- h MRI

**1月第2週 3.治療法**

**A.治療の意義と分類**

- a 意義(治療の意義と自然治癒力)
- b 分類(原因療法、対症療法、救命療法、リハビリテーション、生活指導)

**1月第3週 B.薬物療法**

- a 一般原則
- b 薬物の吸収と排泄
- c 解熱・鎮痛・抗炎症薬
- d 化学療法剤と抗生物質
- e 抗アレルギー薬
- f 精神科用薬
- g 循環器用薬
- h 呼吸器用薬
- i 消化器用薬
- j ホルモン剤
- k ビタミン剤

**C.食事療法**

- a 意義
- b 応用(代謝疾患、肝臓疾患、腎疾患、心臓・循環器疾患)

**1月第5週 D.理学療法**

- a 温熱・水治療法の概要
- b 光線療法の概要
- c 電気療法の概要
- d 運動療法の概要

|           |   |    |
|-----------|---|----|
|           | <p>2月第2週 E.その他の療法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 手術療法の概要と適応疾患</li> <li>b 放射線療法の概要</li> <li>c 集中治療の概要</li> <li>d 透析療法の概要</li> <li>e 人工ペースメーカーの概要</li> <li>f 輸液・輸血・交換輸血の概要</li> <li>g 体位ドレナージの概要</li> <li>h ネプライザー療法の概要</li> </ul> <p>2月第3週 4.臨床心理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A.患者の心理 <ul style="list-style-type: none"> <li>a 精神・心理機能</li> <li>b 心身相関</li> <li>c 神経症</li> <li>d 心身症</li> </ul> </li> <li>B.カウンセリング <ul style="list-style-type: none"> <li>a 概要</li> </ul> </li> <li>C.心理療法 <ul style="list-style-type: none"> <li>a 精神分析療法</li> <li>b 自律訓練法</li> </ul> </li> </ul> <p>※後期期末評価の実施</p> |    |
|           | 後期計   | 45 |
|           | 年度末計  | 90 |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とする。(小数点第1位は切り捨て)  |    |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施する。  |    |
| 予習・復習の進め方 | 教科書や配布資料を精読し内容の理解に努めてください。また既習科目の解剖学や生理学等の内容についても振り返り知識の整理に努め、まとめのノートを作成するように心がけてください。  |    |
| 使用教科書     | 生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論第2版.日本理療科教員連盟教科書委員会編.東京点耳出版所.  |    |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。  |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|                    |   |    |
|--------------------|---|----|
| 課程                 | 専門課程  |    |
| 学年                 | 3年A組  |    |
| 科目名                | あん摩理論   |    |
| 単位数                | 2   |    |
| 法定時間数              | 60  |    |
| 担当教官名              | 岩本 稔  |    |
| 授業の目標              | あん摩マッサージ指圧の治効理論の基礎的内容について、十分理解させることにより、臨床能力を向上させる。また、国家試験出題率の高い部分を集中して指導し、傾向と対策を行う。 |    |
| 指導計画               | 前期内容<br>オリエンテーション   | 1  |
|                    | (1)あん摩の基礎   | 7  |
|                    | (2)マッサージの基礎   | 7  |
|                    | (3)指圧の基礎  | 6  |
|                    | (4)その他の関連する治療法  | 5  |
| (5)あん摩マッサージ指圧の臨床応用 | 4   |    |
| 前期計                |   | 30 |
| 後期内容               | (6)リスク管理  | 5  |
|                    | (7)あん摩マッサージ指圧の基礎理論  | 8  |
|                    | (8)あん摩マッサージ指圧の治効理論  | 8  |
|                    | (9)関連学説   | 6  |
|                    | (10)国家試験過去問を使った総復習  | 3  |
| 後期計                |   | 30 |
| 年度末計               |   | 60 |
| 成績評価の方法            | 理療教育課評価指針に基づき、各学期末に期末試験を行う。   |    |
| 履修上の留意点            | 実技を交えながら基本手技を指導する。  |    |
| 予習・復習の進め方          | 生理学、解剖学等関連科目と併せて予習・復習してください。また、学習した理論を臨床実習で活用することで復習し、身につけてください。                    |    |
| 使用教科書              | 保健基礎理療実習2(保健理療理論)   |    |
| 参考書/参考資料           | 必要に応じて配布  |    |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |     |
|-----------|--|-----|
| 課程        | 専門課程   |     |
| 学年        | 3年A組   |     |
| 科目名       | あん摩マッサージ指圧臨床実習   |     |
| 単位数       | 2  |     |
| 法定時間数     | 90   |     |
| 担当教官名     | 田端 里美、石川 健、岩本 稔、皆川 剛   |     |
| 授業の目標     | あん摩・マッサージ・指圧師として必要なあん摩・マッサージ・指圧の基礎及び臨床応用について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。  |     |
| 指導計画      | 前期内容<br>臨床実習<br>(1)利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、再診の施術協力者の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。<br>(2)施術内容を適切にカルテに記録する。              | 60  |
|           | 前期計  | 60  |
|           | 後期内容<br>臨床実習<br>(1)利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、初診および再診の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。<br>(2)利用者からの希望と施術協力者の同意により、継続治療を実施する。 | 60  |
|           | 後期計  | 60  |
|           | 年度末計   | 120 |
| 成績評価の方法   | 臨床実習評価表に基づき、評価を行う。   |     |
| 履修上の留意点   | 実習助手の協力を得つつ、インシデント・アクシデントの予防に努める。  |     |
| 予習・復習の進め方 | 実習前に担当する施術協力者のカルテを確認する。<br>施術後の経過から施術効果等について考察する。  |     |
| 使用教科書     |  |     |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布   |     |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |         |
|-----------|--|---------|
| 課程        | 専門課程   |         |
| 学年        | 3年生  |         |
| 科目名       | はりきゅうの歴史と理論  |         |
| 単位数       | 2単位  |         |
| 法定時間数     | 60時間   |         |
| 担当教官名     | 松本 元司  |         |
| 授業の目標     | (1) はき師国家試験の出題分野の整理と理解<br>(2) 患者施術に応用できる能力と態度の修得   |         |
| 指導計画      | 前期—古代からの変遷と先人の知恵を含む。<br>第1編 鍼灸施術の基本項目<br>第1章 道具としての鍼と鍼管<br>第2章 きゅうの材料<br>第2編 鍼灸施術の臨床応用<br>第1章 患者の感受性と鍼灸施術の刺激量<br>第2章 鍼灸施術の治療的作用<br>第3章 鍼灸施術の適応症と禁忌症<br>第4章 鍼灸施術における諸注意(リスク管理)<br>第3編 鍼灸の作用機序<br>第1章 鍼灸刺激と興奮伝導路<br>第2章 鍼灸刺激と反射<br>第3章 鍼鎮痛   | 1<br>29 |
|           | 前期計  | 30      |
|           | 後期—国家試験対策と臨床的応用を含む。<br>第3編 鍼灸の作用機序 第4章 刺激と反応<br>第4編 鍼灸の一般的治効理論<br>第1章 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響<br>第2章 鍼の各組織・器官に及ぼす影響<br>第3章 鍼灸刺激とポリモーダル受容器<br>第4章 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響<br>第5章 鍼灸施術の臨床応用<br>第6章 鍼刺激による免疫系の影響<br>第7章 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用<br>第8章 自律神経に関する主な反射<br>第5編 関連学説<br>第1章 サイバネティクスの学説<br>第2章 ホメオスタシスの学説<br>第3章 汎適応症候群の学説<br>第4章 過剰刺激症候群の学説<br>第5章 圧発汗自律系反射の学説 | 1<br>29 |
|           | 後期計  | 30      |
|           | 年度末計   | 60      |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則のに基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とする。(小数点第1位は切り捨て)  |         |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。  |         |
| 予習・復習の進め方 | 1回毎の授業で記憶可能な内容にする。1つの言葉で想起できる項目を増やす。想起した言葉から問いに対して該当する文句を抽出できるようにしていく。   |         |
| 使用教科書     | はりきゅう理論(東洋療法学校協会)  |         |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布する。  |         |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |      |
|-----------|---|------|
| 課程        | 専門課程  |      |
| 学年        | 3年生   |      |
| 科目名       | はりきゅう臨床実習 I   |      |
| 単位数       | 2単位   |      |
| 法定時間数     | 90時間  |      |
| 担当教官名     | 今泉正博<br>皆川 剛  |      |
| 授業の目標     | 施術者として必要なはりきゅう臨床に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。   |      |
| 指導計画      | 1. 施術者としての基本<br>2. 設備や備品の管理と清潔の保持<br>3. 消毒<br>4. 施術の実践  |      |
|           | 前期計   | 48時間 |
|           | 1. 施術者としての基本<br>2. 設備や備品の管理と清潔の保持<br>3. 消毒<br>4. 施術の実践<br>5. 実習のまとめ   |      |
|           | 後期計   | 45時間 |
|           | 年度末計  | 93時間 |
| 成績評価の方法   | 理教教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)  |      |
| 履修上の留意点   | 1. 理療師として必要な基本的態度や心持(寸秘義務等)を身につけるよう留意する。<br>2. 各種治療技術・物療器具・治療器具を選定し、的確に実践できるよう留意する。<br>3. 衛生管理・リスク管理能力を身に付けるよう留意する。<br>4. 授業で履修していない治療方法などは行わないこと |      |
| 予習・復習の進め方 | 1. 事前にカルテを読み、患者情報を把握に努める。<br>2. 経験した患者の病態について教科書等で確認しておく。   |      |
| 使用教科書     | 理療基礎実習 上巻・中巻・下巻   |      |
| 参考書/参考資料  | 臨床実習の心得   |      |



令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |        |
|-----------|---|--------|
| 課程        | 専門課程  |        |
| 学年        | 3年生   |        |
| 科目名       | はり・きゅう臨床実習Ⅱ   |        |
| 単位数       | 2単位   |        |
| 法定時間数     | 90時間  |        |
| 担当教官名     | 天野 光二・安田 晴幸   |        |
| 授業の目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者との良好な人間関係を構築するため、施術者としての心得、基本的態度を身につける。</li> <li>2. 的確に病態を把握し、全身にわたる診察を系統的に実施するため、医療面接・診察・評価が適切に実施できる能力を身につける。</li> <li>3. リスク管理について知り、基本的治療法を適切に実践する。</li> <li>4. 安全かつ清潔の保持に対処するため衛生管理能力を身につける。</li> <li>5. 診療記録を適切に作成し、それを管理する能力を身につける。</li> </ol>  |        |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>外来患者に対し教官の指導の下に、実習生個々の進度に応じた診察、鍼灸治療を実践する。<br/>この期間は教官を診察方法手本に病態把握の仕方、治療法を身につける。また診療に関する情報をカルテに記録、保存する。</p>   | 1～8週   |
|           | <p>外来患者に対し教官の指導の下に、実習生個々の進度に応じた診察、鍼灸治療を実践する。この期間は、再診患者の診察を行い、病態把握の仕方、治療法を身につける。また診療に関する情報をカルテに記録、保存する。</p>  | 9～14週  |
|           | 前期計   | 45     |
|           | <p>後期内容</p> <p>外来患者に対し教官の指導の下に、実習生個々の進度に応じた診察、鍼灸治療を実践する。この期間は、全ての患者に診療を行い、病態把握の仕方、治療法を身につける。また診療に関する情報をカルテに記録、保存する。</p> <p>指導上の留意点と備考</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事前にカルテを読み、患者情報を把握しておく。</li> <li>(2) 経験した患者の病態について成書で確認しておく。</li> <li>(3) 理療師として必要な基本的態度や心得(守秘義務等)を身につける。</li> <li>(4) 各種治療技術・物療器具・治療器具を選定し、的確に実践する能力を養う。</li> <li>(5) 衛生管理・リスク管理能力を養う。</li> <li>(6) 授業で履修していない治療方法などは行わせない。</li> </ol> | 15～31週 |
|           | 後期計   | 45     |
|           | 年度末計  | 90     |
| 成績評価の方法   | 臨床指導要領の評価に基づく   |        |
| 履修上の留意点   | 臨床反省会を年2回実施   |        |
| 予習・復習の進め方 | 毎回の施術患者のカルテを事前に把握し、施術内容に関する項目を事前に学習しておいてください。また施術に伴う患者の疾患や検査法などは、関連科目の内容も含めて振り返り学習してください。苦手な施術法があれば事前に練習をし、それでもうまく施術できないときは補助実習を活用し、積極的に教官に指導を仰いでください。守秘義務に注意し、事前の患者情報の共有を行ってください。事前・事後の学習は欠かさないようにして   |        |
| 使用教科書     | 基礎理療実習・東洋医学臨床論・臨床医学各論・総論:経絡経穴概論等  |        |
| 参考書/参考資料  | 平成31年度版臨床実習の心得  |        |



教科指導計画書(シラバス)

|           |  |         |
|-----------|--|---------|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程  |         |
| 学年        | 3年生  |         |
| 科目名       | 医療概論   |         |
| 単位数       | 1単位  |         |
| 法定時間数     | 30時間   |         |
| 担当教官名     | 天野光二   |         |
| 授業の目標     | 現代の医療制度及び社会保障制度並びに生命倫理についての基礎的知識を理解し、社会性豊かな施術者としての心構えと態度を修得する。   |         |
| 指導計画      | 前期内容<br>1. オリエンテーション<br>2. 医学と医療<br>(1) 現代の医学と医療<br>(2) 現代の医療制度<br>(3) 現代医学と医療の課題                                  | 1<br>14 |
|           | 前期計  | 15      |
|           | 後期内容<br>3. 生命倫理<br>(1) 医の倫理<br>(2) ターミナルケア<br>(3) 自然死、尊厳死、安楽死<br>(4) 臓器移植と脳死<br>(5) 体外受精<br>(6) 人工妊娠中絶<br>(7) 胎児診断 | 15      |
|           | 後期計  | 15      |
|           | 年度末計   | 30      |
| 成績評価の方法   | 前期末と後期末に筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とする。   |         |
| 履修上の留意点   |  |         |
| 予習・復習の進め方 | 普段から、社会保障制度や生命倫理について関心を持ち、関連する情報を収集するように心がける。  |         |
| 使用教科書     | 医療と関係法規 改訂第7版  |         |
| 参考書/参考資料  | 資料は必要に応じて配布します。  |         |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |   |    |
|-----------|---|----|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゆう科 専門課程   |    |
| 学年        | 3年生   |    |
| 科目名       | 関係法規  |    |
| 単位数       | 1単位   |    |
| 法定時間数     | 30時間  |    |
| 担当教官名     | 石川 健  |    |
| 授業の目標     | 施術者として必要なあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師の業務に係る法令について教授し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を修得する。   |    |
| 指導計画      | [前期]<br>(1)あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における免許<br>①免許の積極的要件・消極的要件—1時間<br>②免許申請と名簿への登録—2時間<br>③身分の消滅と復活(免許の訂正、消除、再交付、再免許)—2時間<br>(2)あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における業務<br>①業務の独占と業務範囲—1時間<br>②施術に関する注意(制限行為、禁止行為)—2時間<br>③施術所などに関する規制—2時間<br>④施術所の名称の制限及び広告の制限—2時間<br>(3)罰則—1時間   |    |
|           | 前期計   | 15 |
|           | [後期]<br>(4)医療に関する法律<br>①医療法の概要—1時間<br>②医師法、歯科医師法の概要—1時間<br>③保健師、助産師、看護師法の概要—1時間<br>④柔道整復師法、薬剤師法の概要—1時間<br>⑤医薬品・医療機器等法、地域保健法の概要—1時間<br>⑥健康増進法の概要—0.5時間<br>⑦感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要—0.5時間<br>⑧個人情報保護法の概要—0.5時間<br>(5)社会福祉に関する法律<br>①児童福祉法の概要—1時間<br>②身体障害者福祉法の概要—1時間<br>③知的障害者福祉法の概要—0.5時間<br>④精神保健福祉法の概要—1時間<br>⑤老人福祉法の概要—1時間<br>⑥高齢者医療の確保に関する法律の概要—1時間<br>⑦介護保険法の概要—1時間<br>⑧生活保護法の概要—1時間<br>⑨障害者総合支援法の概要—1時間<br>(6)その他、模擬試験等の要点解説—2時間 |    |
|           | 後期計   | 15 |
|           | 年度末計  | 30 |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とする。<br>(小数点第1位は切り捨て)  |    |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため演習問題による課題を提供します。  |    |
| 予習・復習の進め方 | 教科書や配布資料を精読し内容の理解に努めるとともに、理解が難しい場合は教官に質問する等して知識の整理に努めてください。   |    |
| 使用教科書     | 「医療と関係法規」(改訂第7版)  |    |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。  |    |

令和元年度 教科指導計画書 (シラバス)

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 課程        | 専門課程  |  |
| 学年        | 3年生   |  |
| 科目名       | 東洋医学臨床論(専門分野)   |  |
| 単位数       | 4単位   |  |
| 法定時間数     | 120時間   |  |
| 担当教官名     | 安田 晴幸   |  |
| 授業の目標     | あはき師として各主要症候に対し必要な診断を行い按摩・鍼灸の治療の適否を判断し、適応であれば治療法を取捨選択し適した施術を行う知識と技術を身に着ける。  |  |
| 指導計画      | <p>前期内容</p> <p>オリエンテーション 1</p> <p>第1編 総論</p> <p>第1章 理療施術の意義とその対象 2</p> <p>第2章 診察の基本 6</p> <p>第3章 治療計画の概要と理療治療の奏効機序 2</p> <p>第2編 症候別治療</p> <p>第1章 運動器系の主な症状 頸肩腕・肩こり・腰痛など 22</p> <p>第2章 神経系の主な症状 頭痛・神経痛・不眠など 14</p> <p>第3章 消化器疾患の主な症状 食欲不振・便秘など 13</p> <p>前期計 60</p> <p>後期内容</p> <p>第4章 呼吸・循環器系の主な症状 喘息・高血圧など 6</p> <p>第5章 耳鼻科・眼科・歯科疾患の主な症状<br/>アレルギー性鼻炎・めまい・顔面マヒなど 6</p> <p>第6章 泌尿器科・婦人科系の主な症状 6</p> <p>第3編 生活習慣病と理療治療</p> <p>第1章 生活習慣病の概要 3</p> <p>第2章 主な生活習慣病と理療治療 6</p> <p>第4編 高齢者に対する理療施術</p> <p>第1章 老年医学の意義と役割 2</p> <p>第2章 高齢者の疾患の特徴と理療施術 6</p> <p>第3章 高齢者に多くみられる主な疾患の特徴と理療施術<br/>骨粗しょう 症・パーキンソン病・認知症など 6</p> <p>第5編 スポーツ医学と理療施術 第1章 スポーツ医学の意義と役割 2</p> <p>第2章 スポーツ傷害の概要 2</p> <p>第3章 スポーツ医学における理療施術の意義と役割 6</p> <p>第4章 主なスポーツ傷害に対する理療施術<br/>野球肩・テニス肘・ジャンパー膝・コンパートメント症候群など 2</p> <p>第6編 労働衛生と理療施術 第1節 ヘルスキーパーとしての意義と役割 7</p> <p>臨床カンファレンスを 適宜実施<br/>国試対策 過去問の解答と解説</p> <p>後期計 60</p> <p>年度末計 120</p> |  |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則の基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)   |  |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。   |  |
| 予習・復習の進め方 | 毎回の講義内容を把握し、講義内容に関する項目を事前に学習しておいてください。<br>また既習の内容については、関連科目(臨各・臨総・東概・経穴など)の内容も含めて振り返り学習してください。各症候の「鑑別の要点」と「適応疾患の治療」は特に重要です。ノートに疾患ごとにまとめを作成してください。また、臨床実習で担当した患者の訴えと併せて記載し、不明な点はカンファレンスの時間を取りますので積極的に質問・発表をお願いします。事前・事後の学習は欠かせないようにしてください。   |  |
| 使用教科書     | 臨床理療学(理療臨床論)全3巻   |  |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。  |  |

教科指導計画書(シラバス)

|           |   |  |  |
|-----------|---|--|--|
| 課程        | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程   |  |  |
| 学年        | 3年生   |  |  |
| 科目名       | 地域理療と理療経営(理療経営学)  |  |  |
| 単位数       | 2単位   |  |  |
| 法定時間数     | 60時間  |  |  |
| 担当教官名     | 天野光二  |  |  |
| 授業の目標     | 施術者として必要な地域社会における理療の役割及び理療の経営に必要な知識について理解し、施術者並びに経営者としての能力と態度を修得する。また、施術者として必要な情報処理及び収集能力を養い、問題解決能力を向上させる。  |  |  |
| 指導計画      | 前期内容<br>1. オリエンテーション<br>2. 開業<br>(1) 理療経営の基礎<br>(2) 個人による開業   | 1<br>29                                |  |
|           | 前期計   | 30                                     |  |
|           | 後期内容<br>2. 開業<br>(3) 規模の大きい施術所の経営<br>(4) 社会への貢献<br>3. 施術に関する保険制度<br>(1) 医療保険及び公費負担医療<br>(2) 施術に伴う損害賠償責任保険<br>4. 介護保険<br>(1) 介護保険の概要<br>(2) 介護保険給付の内容<br><br>5. 特別講座 | 14<br>10<br>3<br>3                     |  |
|           | 後期計   | 30                                     |  |
|           | 年度末計  | 60                                     |  |
|           | 成績評価の方法   | 前期末と後期末に筆記試験(記述あり)を実施し、その平均点を学年末評価とする。 |  |
|           | 履修上の留意点   | 情報実習室では、各自の進路に応じた講義内容の深化に取り組み、個別対応とする。 |  |
| 予習・復習の進め方 | 普段から、あはき業界や時事問題について関心を持つよう心掛ける。   |  |  |
| 使用教科書     | 地域理療と理療経営(理療経営学)改訂第7版   |  |  |
| 参考書/参考資料  | 資料は必要に応じて配布します。   |  |  |

令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|         |  |   |
|---------|--|---|
| 課程      | 専門課程   |   |
| 学年      | 3年生  |   |
| 科目名     | 臨床医学各論   |   |
| 単位数     | 3単位  |   |
| 法定時間数   | 90時間   |   |
| 担当教官名   | 今泉正博   |   |
| 授業の目標   | <p>施術者として必要な現代医学の立場からみた系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得する。</p>  |   |
| 指導計画    | <p>前期指導内容<br/>オリエンテーション</p> <p>1. 内科系疾患</p> <p>(1) 消化器疾患</p> <p>(2) 呼吸器疾患</p> <p>(3) 循環器疾患</p> <p>(4) 血液疾患・造血器疾患</p> <p>(5) 泌尿器疾患</p> <p>(6) 生殖器疾患</p>   | <p>1時間</p> <p>15時間</p> <p>7時間</p> <p>7時間</p> <p>5時間</p> <p>10時間</p> <p>5時間</p>                      |
|         | 前期計  | 50時間  |
|         | <p>後期指導内容</p> <p>1. 内科系疾患(続き)</p> <p>(7) 内分泌疾患、代謝疾患・栄養障害</p> <p>(8) 膠原病・膠原病類似疾患</p> <p>(9) 感染症</p> <p>2. その他各科の疾患</p> <p>(1) 皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患</p> <p>(2) 婦人科疾患</p> <p>(3) 小児科疾患</p> <p>(4) 一般外科と麻酔科学</p> <p>(5) 精神科疾患</p> <p>(6) まとめ</p> | <p>10時間</p> <p>8時間</p> <p>6時間</p> <p>6時間</p> <p>3時間</p> <p>2時間</p> <p>5時間</p> <p>3時間</p> <p>4時間</p> |
|         |  | 47時間  |
|         | 年度末計   | 97時間  |
|         | 成績評価の方法  | <p>理教教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価する。<br/>(小数点第1位は切り捨て)</p>  |
| 履修上の留意点 | <p>6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施する。そこで授業の理解度を確認する。</p>   |   |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| <p>予習・復習の<br/>進め方</p> | <p>1. この科目は各疾患毎にその概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後について理解しまとめること。特に 臨床で遭遇しやすい疾患については特に重視し学習すること。<br/>2. 他科目(解剖学、生理学、臨床医学総論、理療臨床医学各論)との関連に留意し予習復習すること。<br/>3. この科目は普段より繰り返し学習することが重要となる。授業時間外に少なくとも週2回、各1時間程度の予習復習をするように努める。</p> |
| <p>使用教科書</p>          | <p>生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)上・下巻</p>  |
| <p>参考書/参考<br/>資料</p>  | <p>必要に応じて配布します。</p>  |



令和元年度 教科指導計画書(シラバス)

|           |  |      |
|-----------|--|------|
| 課程        | 専門課程   |      |
| 学年        | 3年生  |      |
| 科目名       | 臨床取穴学(生体観察を含む)   |      |
| 単位数       | 1単位  |      |
| 法定時間数     | 30時間   |      |
| 担当教官名     | 安田 晴幸  |      |
| 授業の目標     | 施術者として必要な取穴法、選穴法及び配穴法について生体観察を通じて教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。  |      |
| 指導計画      | 【前期】<br>(1)取穴法の基礎と生体観察<br>ア 経脈の流注と取穴姿勢、取穴方向<br>イ 切経と取穴技術<br>(2)選穴法の基礎<br>ア 選穴法の概要<br>イ 選穴法の原則<br>(3)配穴法の基礎<br>ア 配穴法の概要     | 15時間 |
|           | 前期計  | 15時間 |
|           | 【後期】<br>(3)配穴法の基礎<br>イ 配穴法の原則<br>(4)鍼灸施術形式における配穴法の運用<br>ア 正経治療法<br>イ 奇経治療法<br>ウ 太極療法<br>エ 中医学弁証による治療法<br>オ その他の施術形式        | 15時間 |
|           | 後期計  | 15時間 |
|           | 年間計  | 30時間 |
| 成績評価の方法   | 理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価する。(小数点第1位は切り捨て)  |      |
| 履修上の留意点   | (1)「取穴法の基礎」では、切経しながら取穴できるよう留意する。<br>(2)「選穴法・配穴法の基礎」では、具体的な愁訴を例に挙げながら説明ができるよう、またバランスの取れた配穴ができるように留意する。<br>(3)他の科目との関連に留意する。 |      |
| 予習・復習の進め方 | 講義がスムーズに理解できるよう、前回授業の復習を十分おこなうこと。経穴の部位・解剖などは再度復習をお願いします。   |      |
| 使用教科書     | (1) 新版 経絡経穴概論拡大版第2版 日本理療科教員連盟/東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著 第2次日本経穴委員会協力 医道の日本社<br>(2) 理療基礎実習(第2版) 上巻・中巻・下巻 日本理療科教員連盟教科用図書編纂委員会編    |      |
| 参考書/参考資料  | 鍼灸治療基礎額 代田文誌著 医道の日本社、資料は適宜配布します。   |      |

教科指導計画書(シラバス)

|           |  |        |
|-----------|--|--------|
| 課 程       | あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程  |        |
| 学 年       | 3年生  |        |
| 科 目 名     | 臨床診察学  |        |
| 単 位 数     | 1単位  |        |
| 法定時間数     | 30時間   |        |
| 担当教官名     | 天野光二   |        |
| 授業の目標     | 施術者として必要な医療面接と生態観察を含む身体診察による臨床推論の実際について理解し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。  |        |
| 指導計画      | 【前期】   |        |
|           | 1. オリエンテーション   | 1      |
|           | 2. 診療のプロセス   | 1      |
|           | 3. 医療面接について<br>医療面接シミュレーション  | 2<br>6 |
|           | 4. 診察(視診・触診・打診・聴診)の進め方<br>まとめ  | 4<br>1 |
|           | 前期計  | 15     |
| 【後期】      | 5. 頸腕痛の医療面接と診察<br>ROM、MMT、反射、徒手検査                                    | 4      |
|           | 6. 肩関節痛の医療面接と診察<br>ROM、徒手検査  | 3      |
|           | 7. 膝関節痛の医療面接と診察<br>ROM、MMT、計測、徒手検査                                   | 3      |
|           | 8. 腰下肢痛の医療面接と診察<br>ROM、MMT、反射、徒手検査                                   | 4      |
|           | 9. まとめ   | 1      |
|           | 後期計  | 15     |
|           | 年度末計   | 30     |
| 成績評価の方法   | 各期末に実技試験と筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とする。                                    |        |
| 履修上の留意点   | 6月、11月の2回、形成的評価のため観察法による評価を行う。                                       |        |
| 予習・復習の進め方 | 2年次に学習した臨床医学総論、応用実習(徒手検査等)について復習して授業に臨み、さらに、当該科目で学習したものを臨床実習で実践してみる。 |        |
| 使用教科書     | 生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論<br>理療基礎実習(第2版) 中巻                                      |        |
| 参考書/参考資料  | 必要に応じて配布します。   |        |